

2025

4月-6月

安息日聖書教科

Vol. 101 No.2



パート2

ヨハネによる福音 からの教訓

良い羊飼いは、自分の保護下の群れをやさしく導き、保護する

目次

1. イエス、命のパン	5
2. ガリラヤにおける危機	10
3. 仮庵の祭におけるイエス	15
4. この人のように語った者はなかった	20
5. 「わたしもあなたを罰しない」	26
6. イエス、世の光	31
7. 拒まれた光か、あるいは反射された光か?	36
8. イエスとアブラハム	41
9. イエスと盲人	46
10. 霊的な盲目に直面する	52
11. イエス、良い羊飼いです	57
12. イエスとラザロ	62
13. 復活であり命	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A.)

安息日聖書教科
Vol.101, No.2

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Illustrations:
Sermonview on the front
cover; Map Resources on
pp. 4, 46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

ヨハネによる福音の著書は、他の三つの福音書より後の日付で記されましたが、それでも1世紀のうちに記されました。19世紀に、聖書の批評家たちはそれが西暦150年より以前に記されたことを否定し、使徒ヨハネが著者であるという事実と異議を唱えようと試みました。批評家たちはまたそれはグノーシス哲学を反映しているため、グノーシス主義が信仰に対して深刻な脅威となる前に書かれたはずがないと攻撃しました。(グノーシス主義とは信仰よりも知識が救いにとってかぎとなると主張した初期の教派による哲学的また宗教的システムでした。)このような歪んだ攻撃は誤りであることが証明されて久しいです。

その反対に、外面的な証拠は、第四の福音の存在と西暦115年という初期にはすでに高く評価されていたことを証明しています。そのような証拠はパピルスの小さな紙片を通してもたらされました。そこにはヨハネ書からいくつかの聖句(16章31-33, 37, 38節)が記され、ライランド・パピルスとして知られています。一般的にP52として指定され、古書学的に西暦125年とされています。この紙片は2世紀の初めにエジプトで発見され、第四の福音書が早い段階で広範囲に広められていた確かな証拠だと考えられています。有名な新約の学者であるアドルフ・ディーゼマンは次のように確認しています。

「ヨハネによる福音の遅い起源に関する数多くの仮説は、温室の植物のようにすみやかにしおれていくであろう。わたしたちにはヨハネによる福音が2世紀の前半に存在していただけでなく、その写しがエジプトにまで伝えられていたという確かな記録文書による証拠がある。従って福音の起源は、もっと早い時期にまで遡らなければならない。」(Deutsche Allgemeine Zeitung, 1935年12月3日)

ヨハネの著書は初期のクリスチャンたちの間で特別な目的に寄与したばかりでなく、キリストに従う人々にとって、最も多岐にわたる状況下で各時代を通じて、霊的な導き、助け、励ましをもたらしてきました。

主は、「わたしたちに対する新しい光を持っておられる。しかし、それはなお真理のみ言葉から輝き出るべき尊い古い光なのである。わたしたちはこれから自分たちにもたらされるべき光の光線のかすかなひらめきを持っているにすぎない。主がすでにわたしたちに与えて下さった光を最大限に活用していない。そのために増し加わる光を受けるのに失敗しているのである。わたしたちはすでに注がれてきた光のうちに歩んでいない。

わたしたちは自ら律法遵守者と称している。しかし、神の律法の遠大な諸原則のはなはだしい広さを把握していない。その聖なる性質を理解していない。真理の教師だと主張する多くの人は、彼らが神の律法を教える際に自分たちがしていることについて真の概念をもっていない。なぜなら、主なるイエス・キリストの生きた知識を持っていないからである。」(レクテッド・メッセージ 1巻 401, 402)

この福音の続く研究がイエスをよりよく知る助けとなりますように!

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 ロシア・プロホロフカの教会の再建

ロシアは面積で世界最大の国で、面積は 6,612,073.2 平方マイル (17,125,191 km²)、人口は 1 億 4,700 万人です。この広大な領土には 180 を超える国籍の人々が住んでおり、それぞれ異なる宗教を信仰しています。最も多いのはロシア正教 (41.1%) で、次いで他のキリスト教 (6.3%)、イスラム教 (6.5%)、ネオペイガニズムとテングリスト (1.2%)、仏教 (1.2%)、非実践的信者 (25.2%)、無神論者 (13%) が続き、残りは宗教を信仰していません。



SDARM の発足以来、永遠の福音のメッセージは、非常に困難な状況下でこの地で進められてきました。多くの信者は厳しい迫害を受けなければなりません。中には、十字架にかけられ復活した救い主を証しするために命を犠牲にした人もいました。

1990 年代の終わりに、ある聖書伝道師が妻とともに宣教活動を行う目的でロシア中央部に移住しました。彼らの努力と祈りの結果、信者のグループが組織されました。しかし、彼らには集会や礼拝のための場所がありませんでした。ついに 2006 年に、彼らはベルゴロド州プロホロフスキー地区の都市行政の中心地であるプロホロフカの土地に小さな家を見つけました。この農業地域は、クルスク市の南東にあるプショル川沿いの穀物、テンサイ、ヒマワリ、果物を生産しており、鉄鉱石が豊富に埋蔵されています。

神が奇跡的に多くの障害を取り除き、この家の購入を祝福してくださったとき、私たちは神の手が働いていることをはっきりと見ました。この地域での活動は成長を続け、家は神を崇拝するすべての人々を座らせるには狭すぎるものになりました。数年前、私たちは当局から新しい建物を建てる許可を得て、礼拝堂の建設を始めました。兄弟たちは寄付をして懸命に働いてきましたが、このプロジェクトを完成するには、主を愛する世界中の人々の寛大な援助が必要です。このプロジェクトの完成は、救いの最後のメッセージを広める光の灯台として、近隣地域で福音活動をさらに発展させる機会となります。この地域で現在の真理の成功を支援する心構えのあるすべての人を主が祝福してくださいように！

プロホロフカ教会とロシア連邦の兄弟たちより

イエス、命のパン

暗唱聖句：「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。』（ヨハネによる福音書 6:35）

「信仰によってキリストを自分の救い主としてつかむとき、…わたしたちはキリストの肉を食べるのである。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホトト・コメント] 5 巻 1135)

推奨文献： 祝福の山 22-36

1. 野心的な熱心さ

日/3月30日

- a. パンの奇跡の後、多くの人々をとらえた確信は何でしたか（ヨハネによる福音書 6:14）。彼らは熱心に何をしようとしていましたか（ヨハネによる福音書 6:15（上旬））。

「終日この確信は強まって行った。あの最高のみわざこそ、長い間待望していた救世主がわれわれの中におられる証拠である。人々の望みはだんだん高まっていく。この方こそユダヤをこの世の楽園にし、乳と蜜の流れる地にしてくださるおかたである。彼はあらゆる望みを満足させてくださることができる。彼は憎むべきローマ人の権力を打破することがおできになる。彼はユダとエルサレムを救うことがおできになる。彼は戦いに傷ついた兵士たちをいやすことがおできになる。彼は全軍に食物を補給することがおできになる。彼は諸国を征服し、イスラエルが長い間求めていた主権を与えることがおできになる。

民衆は熱心のあまりますますにもイエスを王位につけようとする。彼らは、イエスがご自分に注意をひきつけたり、榮譽を求めたりしようとする努力されないのを見る。この点イエスは祭司たちや役人たちと根本的にちがっておられるので、彼らはイエスがダビデの位につく権利を主張されないのではないかと恐れる。彼らは相談し合って、イエスをむりやりにおし立て、イスラエルの王として宣言することに一致する。弟子たちも群衆といっしょになって、ダビデの位が彼らの主の正当な嗣業であることを宣言しようとする。キリストがこのような榮譽をこぼまれるのは、遠慮のせいだと彼らは言う。民衆に救世主をあがめさせよう。高慢な祭司たちや役人たちにも、神の権威を帯びてこられたイエスを否応なしにあがめさせよう。」（各時代の希望中巻 116-118）

2. 誤り導かれた熱心さをしずめる

月/3月31日

- a. イエスはご自分を地上の王座につけようとする群衆や弟子たちの計画を阻止するために、何をされましたか(ヨハネによる福音書 6:15)。

「弟子たちと群衆」は自分たちの目的を実行する手はずを熱心に進める。だがイエスは、この成り行きをごらんになり、彼らには理解できないが、このような運動の結果がどうなるかを理解される。いまでさえ祭司たちと役人たちは、イエスのいのちをねらっている。彼らは、イエスが民衆を彼らから引離しているといつて非難している。イエスを王位につけようとする努力には暴力と反乱がともない、霊的王国のみわさがさまたげられるであろう。すぐにこの運動をとめなければならない。イエスは、弟子たちをお呼びになって、民衆を解散させるためにわたしは残るから、あなたがたは舟に乗ってすぐカペナウムへもどりなさいと命じられる。

キリストの命令がこれほど実行できないことに思えたことはこれまでになかった。弟子たちは、イエスを王位につける民衆の運動を長い間待ち望んできた。彼らは、このような熱心さがみなむだになってしまうという考えに耐えられなかった。過越節を守るために集まってきている群衆は、この新しい預言者を見たがっていた。キリストに従っている者たちにとって、これこそ愛する主のためにイスラエルの王位を確立する絶好の機会に思えた。

この新しい野心が燃えあがっている中を、淋しい岸边にイエスひとりを残して、自分たちだけで立ち去るのはつらいことだった。彼らはこの手配に抗議した。だがイエスは、かつてこれまで彼らに対してとられたことのない権威をもって、いま彼らに語られた。彼らは、これ以上反対することが無益であることを知り、だまって海へ向かった。」(各時代の希望中巻 118, 119)

- b. 奇跡の翌日、群衆は何をしましたか(ヨハネによる福音書 6:22-25)。

「パンの奇跡についてのうわさが遠近にひろがると、人々は、イエスを見に翌朝非常に早くベッサイダに集まってきた。彼らは、大変な人数で、海と陸づたいにやってきた。前の晩帰って行った者たちも、イエスが向こう岸に渡られる舟がなかったので、まだそこにおられると思ってまたやってきた。しかしさがしても、イエスはおられなかったので、多くの者はまだイエスをさがし求めながらカペナウムに行った。

とかくするうちに、イエスは一日だけ姿をお見せにならなかったあと、ゲネサレに着いておられた。イエスが上陸されたことがわかると、人々は、『その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた』(マルコ 6:55)。(同上 128)

- a. 率直でありながら思いやり深いどのようなメッセージを、イエスは群衆にお与えになりましたか(ヨハネによる福音書 6:26, 27)。

「イエスは、彼らの好奇心を満足させられなかった。彼は、『あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである』と悲しそうに言われた(ヨハネ 6:26)。彼らがイエスを求めたのはりっぱな動機からではなく、パンを食べさせてもらったので、キリストについていることによって、もっとこの世の利益を受けようと望んだからであった。救い主は『朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい』とお命じになった(ヨハネ 6:27)。物質的な利益だけを求めてはならない。現世のために備えることだけが主要な努力であってはならない。霊的な食物すなわち永遠のいのちにいたるまで続く知恵を求めなさい。」(各時代の希望中巻 128, 129)

- b. ユダヤ人は、神のみわざについて、イエスにどのような質問をしましたか(ヨハネによる福音書 6:28)。主がお与えになった回答を説明しなさい(ヨハネによる福音書 6:29)。

「ちよつとの間、聴衆の興味が呼び起こされた。彼らは叫んで言った、『神のみわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか』(ヨハネ 6:28)。彼らは、神の気に入るようにたくさんのわずらわしいわざを行ってきたが、もっと大きな功績になるために遵奉すべき新しいことがあつたら聞きたいという気になった。彼らの質問は、天国にはいる資格を得るためにはわれわれは何をしなければならぬか、きたるべきいのちを手に入れるためにはどんな代価を払わねばならないかというのであった。

「イエスは彼らに答えて言われた、『神がつかわされた者を信じるのが、神のみわざである』(ヨハネ 6:29)。天国の代価はイエスである。天国への道は、『世の罪を取り除く神の小羊』を信ずる信仰によるのである(ヨハネ 1:29)。」(同上 129)

「悔い改めとは自己からキリストへと向きなおることである。そして信仰によってキリストを受け入れ、わたしたちのうちにキリストが生きてくださるようにするとき、よきわざがあらわれる。」(祝福の山 108)

「主がご自分の民を助けて下さって、なされるべき真剣な働きがあることを悟らせてくださるように。…家庭で、教会で、世界で、彼らはキリストの働きをなさなければならない。彼らは自分たちだけで労するよう取り残されてはいない。御使たちが彼らの助け手である。そしてキリストが彼らの助け手なのである。」(教会への証 8巻 18)

- a. ユダヤ人は、どのしるしを望みましたか。またどの歴史的事実を述べましたか（ヨハネによる福音書 6:30, 31）。イエスは天からのパンについて、どのように言われましたか（ヨハネによる福音書 6:32, 33）。

「ユダヤ人はマナを与えてくれた人としてモーセをあがめ、うつわにすぎない彼に賛美をささげて、そのわざをなしとげられたキリストを見落していた。彼らの先祖たちは、モーセに向かってつぶやき、彼の天来の使命を疑い、これを否定した。いま同じ精神で、イスラエルの子らは、自分たちに神のメッセージを伝えておられるおかたを拒絶した。「そこでイエスは彼らに言われた、『よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない』」（ヨハネ六ノ三二）。マナをお与えになったおかたが彼らの中に立っておられた。荒野のヘブル人をみちびき、天からのパンで彼らを日々養われたのはキリストご自身であった。この食物は天のまことのパンの型であった。無限に満ち足りた神のみもとから流れ出るいのちを与えるみたまは、まことのマナである。」（各時代の希望中巻 131, 132）

- b. 彼らの思いは自然な実際のパンにばかり執着していたために、どんな要求をしましたか。そして主はどのように説明なさいましたか（ヨハネによる福音書 6:34-36）。

「イエスがお用いになった比喻は、ユダヤ人のよく知っている比喻であった。モーセは、聖霊の感化を受けて、『人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きる』と言った（申命記 8:3）。また預言者エレミヤはこう書いた、『わたしはみ言葉を与えられて、それを食べました。み言葉は、わたしに喜びとなり、心の楽しみとなりました』（エレミヤ書 15:16）。ラビたち自身の間にも、パンを食べるといふことの霊的な意味は、律法を学び、よいわざを実行することであるという言いならわしがあつた。そして、メシヤが来臨されると、イスラエル全体が養われるということがよく言われていた。預言者たちの教えは、パンの奇跡に含まれている深い霊的な教訓を明らかにした。キリストは、会堂の聴衆に、この教訓を明らかにしようとおられた。もし彼らが聖書を理解していたら、彼らは、『わたしが命のパンである』というキリストのみことばをさとしたのである（ヨハネ 6:35）。疲れて、弱り果てた大群衆が、キリストから与えられたパンで養われたのはついぎのうのことであつた。そのパンから肉体の力と元氣とを受けたように、彼らは、キリストから永遠のいのちにいたる霊的な力を受けられるのであつた。」（同上 132, 133）

- a. 密接につながったどの二つの約束が自らキリストと利害を共にする人々に与えられていますか。またこれはどのように一人ひとりの罪人に希望をもたらしますか(ヨハネによる福音書 6:37-40)。

「信仰をもってキリストを受け入れる者は永遠のいのちを持つと、主は言われた。
(各時代の希望中巻 133)

「自分がもっと善良になり、神の前に出るにふさわしい者となるまでは、キリストに近づくべきではないという敵のささやきに耳を傾けてはならない。それまで待っているとすれば、いつまでも主のところに来ることはできない。もし、サタンが、あなたの汚れた衣を指さすならば、『わたしに来る者を決して拒みはしない』というイエスの約束をくりかえしなさい(ヨハネ 6:37)。イエス・キリストの血がすべての罪から清めると敵に言いなさい。ダビデの祈りをあなたの祈りとして言いなさい。『ヒソプをもって、わたしを清めてください、わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください、わたしは雪よりも白くなるでしょう』(詩篇 51:7)。

立って、あなたの天の父に帰らなさい。神は、遠くからあなたを迎えてくださる。あなたが悔い改めて、一步神に向かって進むならば、神は、永遠の愛の腕にあなたをいだこうと走りよられるのである。神の耳は、悔い改めた魂の叫びを聞くために開かれている。人の心が、まず神を求め出したその瞬間を、神は、ご存じである。どのようにためらいがちな祈りであっても、どのようなひそかな涙であっても、どのようなか弱い切なる心の願いであっても、必ず神の霊がそれを迎えに出られるのである。キリストから与えられる恵みは、祈りが口から出て、心の願いが述べられるその以前にすでに、人の心に働いている恵みに合流する。」(キリストの実物教訓 186)

- b. 不信のユダヤ人は何をつぶやき、イエスはご自分を信じる人々に、どの約束をくり返されましたか(ヨハネによる福音書 6:41-51)。

個人的な復習問題

金/4月4日

1. パンの奇跡の後、キリストに従う人々は何をしようと計画しましたか。
2. イエスに従っていた群衆の主たる関心を述べなさい。
3. ヨハネによる福音書 6:29 にあるイエスの言葉を説明しなさい。
4. キリストは霊的な命の源を表現するためにどの例証をお用いになりましたか。
5. ユダヤ人の指導者たちはどのようにキリストに対する偏見を表しましたか。

ガリラヤにおける危機

暗唱聖句：「イエスは彼らに言われた、『よくよく言うておく。人の子の肉を食わず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。』」(ヨハネによる福音書 6:53)

「唯一の生きた信仰は、真理が存在の一部となり、生活と行動の動機の力となるまで受入れ、同化する信仰である。」(教会への証 5 巻 576)

推奨文献： 教会への証 5 巻 573-580

1. キリストの肉と血における命

日/4月6日

a. 宗教指導者に対して、キリストの言葉はどのような影響がありましたか(ヨハネによる福音書 6:52)。キリストはご自分の肉と血に関して、どのように説明なさいましたか(ヨハネによる福音書 6:53-55)。

「そこでラビたちは、立腹して叫んだ、『この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができようか』(ヨハネ 6:52)。ニコデモが『人は年をとってから生れることが、どうしてできますか』とたずねたときのように、彼らもキリストのみことばを字義通りの意味に解釈したようなふりをした(ヨハネ 3:4)。ある程度彼らは、イエスの言われた意味がわかっていたのであるが、それをみとめようとしなかった。イエスのみことばの意味をとりちがえることによって、彼らはイエスに対する偏見を民衆にうえつけようと望んだのであった。」(各時代の希望中巻 137)

b. 神の御子の肉を食べ、血を飲むとは、実際に何を意味しますか(ヨハネによる福音書 6:56, 57; ヨハネの第一の手紙 3:24; 5:12)。

「イエスの肉を食べ、その血を飲むということは、キリストを自分自身の救い主として受け入れ、キリストがわれわれの罪をゆるしてくださることと、彼のうちにあるときわれわれが完全であるということとを信じることである。キリストの愛を見つめ、これについて瞑想し、これを飲むことによって、われわれはキリストの性質にあずかる者となるのである。肉体にとって食物がなくてはならないように、魂にとって、キリストはなくてはならないものである。」(同上 138)

- a. イエスはどの追加的な説明によって、ご自分の言葉の意味を非常に明確になさいましたか(ヨハネによる福音書 6:63)。

「食物は、われわれがそれを食べて、それがわれわれの生命の一部となるのであれば、何の役にもたない。同様にキリストは、もしわれわれが彼を自分自身の救い主として知るのでなければ、われわれにとって何の価値もないのである。理論的な知識はわれわれに何の益も与えない。キリストのいのちがわれわれのいのちとなるためには、キリストを食べ、キリストを心に受け入れねばならない。キリストの愛、キリストの恵みを同化しなければならぬ。」(各時代の希望中巻 138)

「世の人々にいのちを与えるキリストのいのちは、そのみことばのうちにある。イエスが病気をいやし、悪鬼を追い出されたのはそのみことばによってであった。そのみことばによって、主は海を静め、死人をよみがえらせられた。人々は彼のみことばに力があつたことをあかしした。キリストは、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたように、神のみことばをお語りになった。聖書全体はキリストを表わすものであつて、救い主は、ご自分に従う者の信仰をみことばの上に固くすえようと望まれた。キリストの目に見える存在がとり去られたとき、みことばが彼らの力のみなもとでなければならぬ。主と同じように、彼らも『神の口から出る一つ一つの言で生き』るのであつた(マタイ 4:4)。

われわれの肉体の生命が食物でささえられるように、われわれの霊的命は、神のみことばによってささえられる。だからどの魂も、神のみことばから自分のためにいのちを受けるのである。栄養をとるには自分が食べねばならないように、われわれは、自分自身のみことばを受け入れねばならない。われわれは、みことばを他人の頭脳を仲介として受けるだけであつてはならない。神のみことばをささることができるよう、聖霊の助けを神に求めながら聖書を注意深く研究しなければならぬ。一節をとりあげて、神がわれわれのためにその一節のなかにおかれた思想を確かめる仕事に頭脳を集中しなければならぬ。われわれは、その思想がわれわれ自身のものとなるまで、それについて考えをめぐらさねばならない。その時われわれは、『主が言われたこと』を知るのである。」(同上 139, 140)

- b. 預言者エレミヤはこの経験をどのように描写しましたか(エレミヤ書 15:16)。

「もしわたしたちが神をそのみ言葉のままに受け入れるならば、このお方の救いを見るであろう。…わたしたちは神のみ言葉を受け入れなければならぬ。み言葉を食べ、み言葉に生きなければならぬ。それは神の御子の肉であり、血である。わたしたちはこのお方の肉を食べ、このお方の血を飲む、すなわち信仰によってこのお方の霊的な特質を受け入れなければならぬ。」(教会への証 6 巻 51, 52)

- a. キリストの言葉は、キリストご自身の弟子たちの間でどのような危機を引き起こしましたか。また今日、このことはどのようにわたしたちのための警告なのですか(ヨハネによる福音書 6:60, 61, 65, 66)。

「この試みは大きすぎた。力づくでイエスをおしてて王としようとした人々の熱意はさめた。会堂におけるこの講話によって自分たちの目は開かれたと、彼らは断言した。いまや彼らは夢からさめた。彼らの考えによれば、イエスのみことばは、彼がメシヤではないということ、また彼と関係があってもこの世の報酬は何も得られないということのはっきりした告白であった。彼らは、キリストの奇跡を行なう力を歓迎し、病氣と苦しみから解放されることを熱望したが、キリストの自己犠牲的な生活に共鳴しようとしなかった。彼らはイエスの語られた神秘的な霊的王国を好まなかった。キリストを求めた不誠実で利己的な人々は、もはやキリストを望まなかった。もしキリストが、ローマ人からの解放のためにその権力と勢力とをそそがれないのなら、彼らはキリストと関係したくなかった。…

真理のみことばによって、からは麦から分けられつつあった。彼らは、うぬぼれが強く、独善的で、譴責を受け入れることができず、また世俗への愛着のためにつつましい生活を受け入れることができなかつたので、多くの者がイエスから離れた。今日も多くの者が同じことをしている。カペナウムの会堂でこれらの弟子たちが試みられたように、今日も魂が試みられる。真理が心にうえつけられると、彼らは、自分たちの生活が神のみこころに一致していないことをさとる。彼らは自分自身のうちに完全な変化が行われなければならないことをみとめるが、自己犠牲的な働きをとりあげたくない。だから彼らは、自分の罪がばくろざれると怒るのである。彼らは、弟子たちがイエスを離れ去ったように、『これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか』とつぶやきながら、気を悪くして行ってしまうのである(ヨハネ 6:60)。(各時代の希望中巻 142-143)

- b. これらの弟子たちがご自分から去った後、キリストは十二人に何をお尋ねになりましたか(ヨハネによる福音書 6:67)。わたしたちは今日、どのようにペテロの賢明な応答をこだまさせることができますか(ヨハネによる福音書 6:68, 69)。

「良い報告や悪い報告を通じて、闇を通じて、サタンの代理者たちのあらゆる敵対を通じて、義の太陽は静かに照らしながら、悪を探り出し、罪を抑圧し、またへりくだる心砕けた者の霊を復活させる。『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。』」(牧師への証 285)

- a. キリストから去る人々について、全般的に、わたしたちは何とすることができましか(ヨハネの第一の手紙 2:19)。不満な弟子たちは、どのように失望させる立場を取りましたか。

「こうした不満な弟子たちがキリストから離れ去ると、異なった精神が彼らを支配した。彼らは、一度は非常に興味をもって見ていたイエスに、心をひかれるもの何も見るができなかった。彼らは、イエスの敵をさがし出した。それは彼らが敵の精神と働きに一致していたからであった。彼らは、イエスのことばを誤解し、彼の宣言を曲解し、彼の動機を攻撃した。彼らは、イエスにとって不利なあらゆる項目を集めることによって、自分たちの行動を正当づけた。このような偽りのうわさによって、非常な怒りがかきたてられたので、イエスの生命は危険になってきた。」(各時代の希望中巻 144)

- b. 肉の思いを持つ聴者たちはどうなりましたか(ローマ人への手紙 16:17, 18)。

「彼らの耳には称賛とお世辞はこころよいが、真理は歓迎されない。彼らはそれを聞くことができない。民衆が従い、大群衆が養われ、勝利の叫びが聞かれると、彼らは、声高らかに賛美する。しかし神のみたまのさぐりによって彼らの罪があらわされ、その罪を離れるように命じられると、彼らは、真理に背を向けてふたたびイエスと共に歩まない。」(各時代の希望中巻 143, 144)

- c. イエスを去った人々の他に、だれが心の内にキリストの敵と結びつきましたか。またどのようにこの二心の同盟が現れましたか(ヨハネによる福音書 6:70, 71)。

「キリストが会堂で生命のパンについて話されたことがユダの歴史における転機であった。…彼はキリストが世俗的な幸福よりも霊的な幸福を提供しておられることを知った。彼は自分に先見の明があると思っていたので、イエスが栄誉を受けられることもなく、また弟子たちに高い地位をお与えになることもないということがわかったと思った。彼は離れることができないほど密接にイエスに結びつくことはすまいと決心した。彼は見張っていようと思った。そしてその通り見張っていた。

その時から、彼は、弟子たちを混乱させるような疑惑を表明した。彼は議論と人をまよわせる意見を持ち込み、学者たちパリサイ人たちがキリストの主張に反対してとなえる議論をくりかえした。大小の心配や苦勞、福音の進展にとつての困難や妨害とみえるものなどはすべて福音が真実なものではない証拠であるとユダは解釈した。」(各時代の希望下巻 219, 220)

5. 裏切者を見わけろ

木/4月10日

- a. ユダが身につけた特質を述べなさい(ヨハネによる福音書 12:4-6; 箴言 3:32)。

「〔ユダ〕はキリストが述べておられる真理とは何の関係もない聖句をよく持ち出した。こうした聖句は、前後関係を抜きにされると、弟子たちを困惑させ、たえず彼らを襲っている落胆を増し加えた。しかもこうしたことはすべて、自分を良心的にみせるようなやり方でなされた。」(同上 220)

- b. わたしたちの宗教経験において、ガリラヤにおけるこのような危機においてさえ、しばしばどの約束が確認されますか(ローマ人への手紙 8:28)。

「イエスが試金石となる真理を示され、そのために多くの弟子たちが離反したとき、彼はご自分のことばの結果がどうなるかをご存知であった。しかし主は、達成すべきあわれみの目的をもっておられた。イエスは、試みの時に、愛する弟子たちのひとりびとりが激しく試みられることを予見しておられた。ゲッセマネのキリストの苦しみ、キリストが売り渡され十字架につけられることは、彼らにとって非常にきびしい試練となるのであった。

もしもって試練が与えられなかったら、ただ利己的な動機から行動していた多くの者たちも弟子たちとの関係が続けたであろう。彼らの主が法廷で有罪の宣告を受けられたとき、またかつてイエスを王として歓呼した群衆がイエスをののり、イエスに悪口を浴びせたとき、あるいはまたやじ馬たちが『十字架につけよ』と叫んだとき、—こうして彼らの世俗的な野心が裏切られたとき、これらの利己的な連中は、イエスへの忠誠心を捨てることによって、虫のよい望みがこわれてしまったことに悲嘆と失望とを感じていた弟子たちに一層心の重荷となるにがい悲しみを与えたであろう。こうした暗黒のときに、イエスから離れ去った連中の手本によって、他の者たちも彼らにひきずられたかも知れなかった。しかしイエスは、ご自分に真に従っている者たちを、ご自分の存在によってまだ強めることができになる間に、この危機を招かれたのであった。」(各時代の希望中巻 146, 147)

個人的な復習問題

金/4月11日

1. わたしたちはどのように「人の子の肉を食べ、また、その血を飲む」べきですか。
2. イエスを見るときはどういう意味ですか。
3. なぜキリストの言葉につまずいた人々がいたのですか。
4. 彼らは後にどうしましたか。またこれはわたしたちにとってどのように警告ですか。
5. この後のユダの霊的な状態とその影響を述べなさい。

仮庵の祭におけるイエス

暗唱聖句：「その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。」(ルカによる福音書 4:32)

「イエスは魂の欲求を知っておられた。はなやかさや富や名声は心を満足させることができない。『だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい』(ヨハネ 7:37)。金持も貧しい者も、身分の高い者も低い者もみな一様に歓迎される。イエスは、重荷を負った心を助け、悲しむ者を慰め、落胆した者に望みを与えると約束しておられる。」(各時代の希望中巻 234)

推奨文献： 祝福の山 37-44

1. イエスの家庭生活

日/4月13日

a. イエスのご自身の家庭において、どのような深刻な課題がありましたか(ヨハネによる福音書 7:5)。

「ごく幼い時から、イエスのご自分から品性を築き始められ、両親への尊敬と愛もイエスを神のみことばに従うことから離れさせることができなかった。家庭の習慣とちがった行為をなさるたびに、その理由は『聖書にこう書いてある』ということであった。しかしラビたちの圧力はイエスの一生を苦しいものにした。少年時代においてさえ彼は沈黙としんぼうづよい忍耐について教訓を学ばねばならなかった。

ヨセフの息子たちはイエスの兄弟と呼ばれていたが、彼らはラビたちの味方であった。彼らは、言い伝えがあたかも神の規則でもあるかのように、これに注意すべきであると言い張った。彼らはまた人の教えを神のみことばよりもとうといもののみなすことさえし、イエスが虚偽と真実との区別をはっきりと見とおされるのにいらだった。彼らは、イエスが神の律法に厳格に従われるのを頑固(がんこ)だと言って非難した。彼らはイエスがラビたちに答えておられるときに示された知識と知恵に驚いた。彼らはイエスが博士たちから教育を受けられたことがないことを知っていた。それなのに、かえってイエスが博士たちを教えておられるのに気づかないわけにゆかなかった。彼らはイエスの教育が彼ら自身の教育よりも程度の高い型のものであることをみとめた。しかし彼らはイエスがいのちの木、すなわち彼らの知らない知識のみなもとに近づいておられることを認識しなかった。」(各時代の希望上巻 82-84)

- a. 年ごとの仮庵の祭が近づいている時に、キリストの兄弟たちはキリストに、どのような提案をしましたか(ヨハネによる福音書 7:3, 4)。

「イエスの兄弟たちは、イエスが国のえらい、学問のある人たちから遠ざかっておられることはまちがいだと思った。彼らは、この人たちが正しいにちがいない、そしてイエスがそうした人たちと敵対的な立場にあることはまちがいだと思った。しかし彼らは、イエスの欠点のない生活を目に見、弟子たちの仲間ではなかったが、そのみわぎに深く感動していた。イエスがガリラヤで人気のあることが、彼らの野心を満足させていた。彼らは、イエスが自ら主張される通りのおかたであることをパリサイ人たちにわからせるような権力の証拠を示されるようにとまだ望んでいた。イエスがイスラエルの君、メシヤだとしたらどうだろう。彼らは誇らしい満足をもってこの考えをいいていた。

彼らは、このことについて非常に熱心だったので、キリストにエルサレムに行かれるようにとしきりにすすめた。彼らは、『あなたがしておられるわざを弟子たちにも見せるために、ここを去りユダヤに行つてはいかがです。自分を公けにあらわそうとと思っている人で、隠れて仕事をするものはありません。あなたがこれらのことをするからには、自分をはつきりと世にあらわしなさい』と言った(ヨハネ 7:3-4)。この終りのことばには疑いと不信が表わされていた。彼らは、イエスが臆病で弱気であるとみていた。もしイエスが、自分はメシヤであるということを知っておられるのだったら、こんなに妙に引込んでばかりいて活動されないのはなぜだろう。もしほんとうにそんな権力を持っておられるのだったら、なぜ大胆にエルサレムへ行つて、ご自分の資格を主張されないのだろう。ガリラヤでうわさになっているようなふしぎなわざをエルサレムで行つたらどうだろう。片いなかにかくれて、無知な百姓や漁師のためにあなたの偉大なわざを行っていないで、首都に姿を現わして、祭司たちと役人たちの支持を受け、国民を結合して新しい王国を建てなさいと彼らは言った。(各時代の希望中巻 228, 229)

- b. 柔和な者はいつも直面する問題を述べなさい(詩篇 86:14)。

「イエスの兄弟たちは、見せびらかしの野心を持っている人たちの心にしばしばみられる利己的な動機から推論した。この精神は世の人々の支配的な精神であった。彼らは、キリストが、この世の王座を求めないで、ご自分が生命のパンであると宣言されたので、腹を立てた。イエスの多くの弟子たちがイエスを捨てたとき、彼らは非常に失望した。彼ら自身もまた、イエスのみわぎにあらわされていること、すなわちイエスが神からつかわされたおかたであるということを知る重荷からのがれるために、イエスから離れた。」(同上 229, 230)

- a. イエスについて、どのような相反する意見が生じましたか（ヨハネによる福音書 7:11, 12）。

「キリストの奇跡のうわさは、エルサレムから、ユダヤ人の離散しているところへはどこへでもひろがっていた。イエスは、何か月ものあいだ祭に出られなかったが、それでもイエスに対する関心はうすれていなかった。世界の各地から、多くの人々が、イエスを見たいという希望をもって、仮庵の祭にやってきた。祭の初めに、多くの者がイエスのことをたずねた。パリサイ人たちと役人たちは、イエスを罪に定める機会をみつきたいと望んでイエスがこられるのを待った。彼らは心配しながら『彼はどこにいるか』とたずねたが、だれも知らなかった。

すべての人の心は、イエスについての思いで占められていた。祭司たちと役人たちを恐れたために、だれもあえてイエスをメシヤとして承認しようとはしなかったが、いたるところで、イエスについて、静かで熱心な議論が聞かれた。多くの者は、イエスを神からつかわされたおかたとして弁護したが、一方他の者たちは民衆をあざむく者としてイエスを攻撃した。」（各時代の希望中巻 231）

- b. イエスはご自身に関する相反する意見を、どのように沈黙させましたか（ヨハネによる福音書 7:14-18; ルカによる福音書 4:32）。

「祭のなかばに、イエスについての興奮が最高潮に達したとき、イエスは群衆の目の前で、宮の庭にはいられた。イエスが祭に出られなかったのも、イエスは祭司たちと役人たちの権力を恐れているのだと言われていた。人々はみなイエスが姿を現わされたのに驚いた。だれもが声をひそめた。自分の生命をねらっている強力な敵のまっただなかにおけるイエスの態度の威厳と勇気とを見て、みんなは感嘆した。

この大群衆の注目のまとなって、イエスはだれもかつてしたことがないような演説をされた。彼のことは、イスラエルの律法と制度、またいけにえの儀式や預言者の教えについて、祭司たちやラビたちよりもはるかにすぐれた知識が示された。彼は形式主義と言ひ伝えの壁を打ち破られた。来世の光景がイエスの前にくりひろげられたようにみえた。目に見えない神を見たおかたとして、イエスは地上のこと天上のこと、人間のこと、神のことについて、絶対の権威をもって語られた。イエスのみことばは非常にはっきりしていて、人々の心をとくさせた。人々は、カペナウムで驚いたように、ふたたびイエスの教えに驚いた。なぜなら『その言葉に権威があった』からである（ルカ 4:32）。……みんなは 律法と預言についてのイエスの知識に驚いた。」（同上 232）

- a. イエスはラビたちのうちに何を読み取られましたか。また彼らにどのような質問をなさいましたか (ヨハネによる福音書 7:19)。

「イエスは、ラビたちの心を読まれたことを示すことによって、ご自分の神性の証拠を彼らに示された。ベテスダでのいやしののち、彼らはずっと、イエスの死をたくらんできた。こうして彼らは、律法を擁護していると口では言いながら、その律法を自ら破っていた。『モーセはあなたがたに律法を与えたではないか。それなのに、あなたがたのうちには、その律法を行う者がひとりもない。あなたがたは、なぜわたしを殺そうと思っているのか』とイエスは言われた。」(各時代の希望中巻 239)

- b. キリストへの答えの中で、ラビたちは何についてこのお方を告発しましたか。また今度はキリストがどのように彼らにお答えになりましたか (ヨハネによる福音書 7:20-23)。

「〔悪霊によってこのお方の驚くべきわざが扇動されたのだという〕このほのめかしに、キリストは注意を払われなかった。イエスはつづいて、ベテスダでのいやしの働きが安息日の律法と一致していること、またユダヤ人自身の律法の解釈によって正当なものであることを示された。『モーセはあなたがたに割礼を命じたので、……あなたがたは安息日にも人に割礼を施している』と、イエスは言われた (ヨハネ 7:22)。律法によれば、どの子も八日目に割礼を受けさせねばならない。もしその定められた日が安息日にあたって、この儀式を行わねばならない。ましてや『安息日に人の全身を丈夫にしてや』ることは律法の本質に一致していなければならない (ヨハネ 7:23)。」(同上 239, 240)

- c. キリストの次の警告の広い意味を説明しなさい (ヨハネによる福音書 7:24)。

「役人たちは沈黙させられた。すると多くの人々は、『この人は人々が殺そうと思っている者ではないか。見よ、彼は公然と語っているのに、人々はこれに対して何も言わない。役人たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知っているのではなかろうか』と叫んだ。」(同上 240)

「〔キリスト〕は外見をご覧にならない。このお方は人が判断するようには判断なさらない。人の価値をその階級やタラント、教育、あるいは地位によってはからない。『わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である』と宣言なさる。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897年10月21日)

- a. この世界における社会の精神的な状態—しばしば昔に見られ、今日は特に見られる状態—を、聖書はどのように描写しますか (イザヤ書 59:14, 15)。

「悪の代理人たちは自分たちの力を結合し、強固になっている。彼らは終わりの大危機のために強化している。大きな変化がまもなくわたしたちの世界に起きようとしている。そして最後の動きは急速なものとなるであろう。…

敵は正義をゆがめ、人の心を利己的な利益への願望で満たすことに成功してきた。…あらゆる種類の圧迫と搾取によって人が莫大な富を築き上げている一方で、飢えた人類の叫びが神のみ前に上っている。」(教会への証 9 巻 11, 12)

- b. 混乱のただ中でわたしたちは、どのように神の方法に信頼できますか (イザヤ書 55:8, 9)。

「人間の有限な心は、無限の神のご計画を十分に悟ったり、そのみ心の働きを完全に理解したりはできないけれども、しかし神のメッセージをほんのわずかしか理解できないのは、彼らの側の誤りや怠慢のゆえであるという場合も、よくあるのである。一般の人々、そして神のしもべたちでさえ、人間の意見、人間の伝説や偽りの教えに目がくらんで、神がみ言葉の中に啓示された大事実のほんの一部しか把握できない場合がよくある。」(各時代の争闘下巻 37)

「人の子らに対する神の理想は、人間の最高の思想が及ぶよりも高い。神はご自分の聖なる律法の中に、ご自分のご品性の写しをお与えになった。」(教会への証 8 巻 63)

個人的な復習問題

金/4月18日

1. イエスが成長された家庭環境を述べなさい。
2. キリストの兄弟たちによって示された特質が今日、どのように繰り返されていますか。
3. イエスについて、どの相反する意見が出回りましたか。
4. ラビたちがイエスに対して表した精神を説明しなさい。
5. 人の方法と神の方法の間にある大幅な対比を述べなさい。

第4課

この人のように語った者はなかった

暗唱聖句：「下役どもは答えた、『この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした。』」(ヨハネによる福音書 7:46)

「真理を感知し、認識することは、頭よりも心の問題であると、イエスは言われた。真理は魂に受け入れられねばならない。それは意思の服従を要求する。」(各時代の希望中巻 238)

推奨文献： 牧師への証 506-512

1. イエスに対する民の関心

日/4月20日

- a. イエスが公に説教しているのを聞いたり見たりして、あるユダヤ人たちは何を尋ねましたか(ヨハネによる福音書 7:25, 26)。

エルサレムに住んでいて、キリストに対する役人たちの陰謀を知らないことはなかった聴衆の中には、抵抗できない力によってキリストにひきつけられている者が多かった。彼らは、イエスが神のみ子であるという確信を強く感じさせられた。」(各時代の希望中巻 240)

- b. サタンはどのように役人たちが疑いを起こすように働きかけましたか(ヨハネによる福音書 7:27)。

「サタンはすぐに疑いを起そうとするのであった。メシヤとその来臨について、彼ら自身のまちがった考え方によって、疑いへの道が備えられていた。キリストはベツレヘムにお生まれになるが、しばらくするとその姿が見えなくなり、二度目に姿を現わされた時には、だれも彼がどこからこられたかを知らないと一般に信じられていた。メシヤは人間から生まれるのではないと主張する人たちが少なくなかった。またメシヤの栄光についての民衆の観念がナザレのイエスにあてはまらなかったので、多くの者は、『わたしたちはこの人がどこからきたのか知っている。しかし、キリストが現れる時には、どこから来るのか知っている者は、ひとりもない』との暗示に注意を払った(ヨハネ 7:27)。」(同上)

2. 奇跡的な計画が妨げられた

月/4月21日

- a. 疑いながら聞く人々の思想を読まれて、イエスは彼らに、何と言われましたか(ヨハネによる福音書 7:28)。

「このように彼らが疑いと信仰の間を動揺していると、イエスは、彼らの思いを取りあげて、こうお答えになった、『あなたがたは、わたしを知っており、また、わたしがどこからきたかも知っている。しかし、わたしは自分からきたのではない。わたしをつかわされたかたは真実であるが、あなたがたは、そのかたを知らない』(ヨハネ 7:28)。彼らは、キリストの生まれがどうあるべきかについて知っていると言ったが、しかしそのことについてまったく無知であった。もし彼らが神のみこころに一致した生活をしていたら、彼らは、神のみ子が彼らにあらわされたときにみ子を知ったであろう。」(各時代の希望中巻 240, 241)

- b. イエスに反ばくできる論拠がなかったために、ユダヤ人の指導者たちはどの手段をもってこのお方を黙らせようとしたか(ヨハネによる福音書 7:30(上句))。実際、彼らはなぜキリストを捕まえられなかったのですか(ヨハネによる福音書 7:30(下句))。

「聴衆は、キリストのみことばを理解しないではいられなかった。それは明らかに何か月も前にイエスがサンヒリンの議員達の前でご自分を神のみ子と宣言された時の主張のくりかえしであった。役人たちは、その時イエスの死をたくらんだように、いままたイエスを捕えようとした。しかし彼らは目に見えない力にさまたげられた。その力は彼らの怒りを制限して、『ここまで来てよい、越えてはならぬ』と彼らに言った。」(同上 241)

- c. どのように多くの人々がイエスを信じる自分の信仰を表明しましたか。また役人たちはひとたび民がこのお方に共鳴していることを認めると何を企てましたか(ヨハネによる福音書 7:31, 32)。

「パリサイ人の指導者たちは、事の成り行きを心配して見守っていたが、群衆の中に共鳴の表情を見てとった。彼らは急いで祭司長たちのところへ行って、イエスを捕える計画をたてた。しかし彼らは、イエスがひとりでおられるときに捕えるように手はずをきめた。なぜなら人々の目の前でイエスを捕える勇気がなかったからである。」(同上)

- a. 祭の最終日に、イエスは罪に疲れている魂を慰めるために、どの美しい例をお用いになりましたか(ヨハネによる福音書 7:37, 38)。

「神の言葉を受け入れる人は、蒸発してしまう水たまりや、大切な水を失ってしまうこわれた水ためのようなものではない。それは、つきない泉を源とする山間の流れのようなもので、岩間に飛び散って輝くその冷たい水は、疲れた人や、のどの渇いた人、重荷を負っている人々を活気づけるのである。それは絶え間なく流れる川のようなものである。そして、それは流れていくにつれて、ますます深く広くなって、ついにその生命を与える水は全地をおおうに至るのである。さざめき流れる小川はそのあとに緑と豊かな実りの賜物を残してくれる。岸边はあざやかな緑に映え、樹木は深い緑を装い、草花は色とりどりに咲き誇る。焼けつくような暑さのもとで、地上の草木が枯死しようとしているとき、川の流れて沿って緑が一つの線をえがく。

神の真の子供もそれと同じである。キリスト教は、活気にみなぎった普遍の原則、生きた活動的靈的活力となってあらわれる。真理と愛という天の影響に心が開かれるときに、これらの原則は、再び砂漠の中の川のように流れ始めて、今、不毛と飢饉に悩む地に、豊かな実りをもたらすのである。」(国と指導者上巻 201)

- b. この招きは、さらにどのように理解されるべきですか(ヨハネによる福音書 7:39)。

「キリストは福音の中にある真理の諸原則を提示された。このお方の教えの中で、わたしたちは神のみ座から流れる清水を飲むことができる。」(教会への証 8 巻 309)

「わたしたちに必要なのは生きた宗教である。義務について広い見解をもつた一人の個人、すなわち魂が神との交わりのうちにおり、キリストのための熱心に満ちている人は、善のために強力な感化力を発揮する。その人は低くよどんだ汚染されたところからは飲まないで、泉の源で純粋な高い水から飲む。そして彼は新しい霊と力を教会に伝達することができる。外からの圧迫が増すにつれ、神はご自分の教会が、彼らの信じる神聖で厳粛な真理によって活力を得ることを望んでおられる。天からの聖霊は神のむすこ娘たちと共に働いて、障害を乗り越えさせ、敵に対して有利な立場を得る。神は真理を愛し戒めを守るご自分の民のために偉大な勝利を取り置かれている。」(同上 5 巻 581)

4. 他の人が語ったことのない言葉

水/4月23日

- a. キリストが命の水に言及された結果、多くの人々はどのような結論に至りましたか。またそれはなぜですか (ヨハネによる福音書 7:40; (申命記 18:15 と参照))。
- b. そのような展望によって希望を吹き込まれた人々がいる一方、他の人々はどのように反応しましたか (ヨハネによる福音書 7:41-44)。
- c. 下役たちは役人たちからどのような命令を受けていましたか (ヨハネによる福音書 7:45)。なぜ彼らはイエスを捕まえる気になれなかったのですか (ヨハネによる福音書 7:46)。

「祭の最後の日に、祭司たちと役人たちからつかわされた下役どもは、イエスを捕えなくて帰ってきた。彼らは『なぜ、あの人を連れてこなかったのか』と腹立たしげにたずねられた。すると彼らは、厳粛な顔をして、『この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした』と答えた。

彼らの心はかたくなだったが、イエスのみことばによってやわらげられたのであった。イエスが宮の庭で話しておられる間、彼らはそばをうろついでいて、何かイエスに反対するきっかけをつかもうと待っていた。しかし聞いているうちに、彼らは自分たちがつかわされた目的を忘れた。彼らはわれを忘れた人間のように立っていた。キリストは、彼らの魂にご自分をお示しになった。彼らは祭司たちと役人たちが見ようとしぬもの一神性の栄光に あふれている人性を見た。」(各時代の希望中巻 243, 244)

「〔キリスト〕は神聖な真理を例証するのに、彼らになじみ深い自然の事がらをお用いになった。心という土壌はこうして良い種を受け入れる準備がなされた。このお方はご自分の聴衆に、ご自分が彼らの関心と一つにしておられること、またこのお方の心は彼らの喜びや悲しみに共鳴して鼓動していることを感じるようにされた。同時に彼らはこのお方のうちに自分たちの最も尊敬しているラビがもっているものをはるかに越えた力と卓越さのあらわれを見た。キリストの教えは、単純、威厳、そしてこれまで彼らが知らなかった力が顕著であった。そして思わず叫んだのであった、『この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした』。民は喜んでこのお方の言葉を聞いた。しかし、祭司や役人たちは一真理の保管者としての信任に対して不忠実であって一表された恵みそのものためにキリストを憎んだ。その恵みは彼らから群衆を引き話して命の光であるお方に従わせた。彼らの感化力を通して、ユダヤ国家はこのお方の神聖なご品性を見極めることに失敗し、贖い主を拒んだ。」(教会への証 5 巻 747)

- a. 祭司長やパリサイ人は、どのように下役たちを譴責しましたか（ヨハネによる福音書 7:47-49）。
- b. そのあとに続いたニコデモとの会話が、ヨハネ 3 章にあるキリストとの夜の会見以来、彼が成長したことを表していました。それを述べなさい（ヨハネによる福音書 7:50-52）。

「〔ニコデモ〕は真理を心にかくして、三年間は成果を見ることがなかった。しかしニコデモは、公に認めていなかったあいだも、サンヒドリンの協議会において、主を殺そうとしている祭司たちの陰謀には繰り返し反対していた。」（患難から栄光へ上巻 108）

「〔ヨハネ 3 章にある彼の夜の訪問で〕キリストがニコデモにお与えになった教訓はむだではなかった。確信が彼の思いをしっかりとらえ、その心の内にイエスを受け入れた。救い主との会見以来、彼は真剣に旧約聖書を探り調べ、福音の中に正しく置かれた真理を認めた。

彼が尋ねた質問は賢明であり、会議を進行していた人々が敵に欺かれていなければ、それ自体説得力があった。しかし、彼らはあまりにも偏見に満たされていたため、ナザレのイエスに有利な議論はどんなに説得力があっても彼らに何の重みももたないのであった。ニコデモが受けた答えは、『あなたもガリラヤ出なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤから預言者が出るものではないことが、わかるだろう』であった。

祭司たちや役人たちは、サタンの意図した通りに、キリストがガリラヤから来たと思えるよう欺かれていた。このお方がベツレヘムでお生まれになったことを知っている人々は、偽りが力を失わないよう黙っていた。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1136）

個人的な復習問題

金/4月25日

1. なぜイエスは人々の注意と尊敬を引き付けたのですか。
2. ユダヤ人の役人たちはイエスを止めようとして、どのように言い張りましたか。
3. イエスは祭の最後の日にどのような公の訴えをされましたか。
4. その結果として起こった大争闘を説明しなさい。
5. わたしが知っている人々を考えると、ニコデモについて何を覚えているべきですか。

第一安息日献金 世界ミッション

今日、時にかなった次のメッセージが響き渡っています。

「伝道精神がわたしたちの教会の中でよみがえる必要がある。教会員一人一人は国内の伝道でも海外の国々でも、どのように神のみ働きを助けて押し進めるかを研究すべきである。伝道地でなされるべき働きの千分の一さえもほとんどなされていない。神はご自分の働き人たちがご自分のために新しい領域をつけ加えるように求めておられる。忠実な働き人が耕すのを待っている肥沃な伝道地がある。そして奉仕する天使は私心なく主人であるお方のために労するすべての教会員と協力するのである。



地上におけるキリストの教会は伝道という目的のために組織された。そして主は教会全体が高い所も低いところも、富める者も貧しい者も真理のメッセージを聞けるように道と手段を講じるのを見たいと切望しておられる。すべての人が海外で自ら働くように召されているのではないが、すべての人が伝道の働きを助けるために祈りや捧げ物によって何かをすることができる。

熱心なクリスチャンであった一人のアメリカ人が、同僚の働き人との会話で、自分がキリストのために一日 24 時間働いていると述べていた。『わたしのすべての取引関係において、わたしの主人であるお方を表そうと努めています。機会があるときには、他の人々をこのお方のために勝ち取ろうと努めています。一日中、わたしはキリストのために働いています。そして夜、わたしが寝ている時には、わたしには中国でキリストのために働いている人がいます。』

さらに説明を加えて言いました。『わたしが若い時に異教の地へ伝道者としていこうと決心しました。しかし、わたしの父が亡くなり、家族を養うために彼の事業を引き継がなければなりません。今、わたしは自分が行く代わりに、伝道者を支えています。中国のかくかくしかじかという省に、わたしの働き人が駐在しています。ですから、わたしが寝ている時でさえ、わたしの代表者を通して、なお、わたしはキリストのために働いているのです。』(教会への証 6 巻 29, 30)

今こそ、世界のミッションを通じて天の銀行に投資する時です。これ以上簡単にはなりませんし、後では手遅れになるかもしれません。魂はキリストと現在の真理なしに滅びていますが、主は、地球全体に広めるよう、わたしたちに貴重な光を託してられました。

どうか惜しみなく与えてください、そして主があなたとあなたの贈り物を豊かに祝福してくださいますように。ありがとうございます！

世界総会安息日学校部

「わたしもあなたを罰しない」

暗唱聖句：「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。」(ヨハネによる福音書 8:11 下句)

「クリスチャンの愛はいつも、人を非難するのに遅く、悔い改めをみとめるのに早く、人をゆるし、励まし、さまよっている者を聖潔の道に歩ませ、彼の足をそこにしっかりとどめるようにするのである。」(各時代の希望中巻 249)

推奨文献： 教会への証 2巻 73-77

1. イエスのためのわな

日/4月27日

- a. イエスが宮で教えておられる間、律法学者やパリサイ人は何をしていましたか(ヨハネによる福音書 8:2-3)。

「イエスの話はすぐにさまたげられた。パリサイ人と律法学者の一群が、恐怖におびえた女をひっぱってイエスに近づき、はげしく熱心な声で、この女が第七条の戒めを犯したことを責めた。」(各時代の希望中巻 246)

- b. 律法に対して外見上は敬意を示しながら、パリサイ人はキリストにどの質問をしましたか。また彼らの真の意図は何でしたか(ヨハネによる福音書 8:4-6(上句))。

「彼らの敬虔のよそおいの下には、イエスの破滅をたくらむ深い陰謀がかくされていた。彼らは、イエスがどんな決定をくだされるにせよ、彼を非難するチャンスをみつけることができると考え、イエスを罪に定めるのにこの機会をとらえたのであった。もしイエスがこの女を無罪とされたら、モーセの律法を軽んじているという非難を受けられるだろう。もしこの女が死に値すると宣告されたら、イエスは、ローマ人にもみ属している権威を自分がとられたとあってローマ人に対して訴えられるであろう。」(同上)

- a. パリサイ人の欺瞞に、イエスはどのように応じられましたか（ヨハネによる福音書 8:6（下句））。

「イエスはしばらくその光景一恥ずかしさにうちふるえている被害者と人間的なあわれみの情さえないこわい顔つきをした高官たちとをながめておられた。けがれの無いイエスの純潔な心はその光景にすくんだ。この問題がどんな目的で自分のところへ持ち込まれたかを、イエスはよくご存知だった。イエスはみ前にいる一人びとりの心を読み、その品性と経歴を知っておられた。正義の擁護者を気取っているこれらの人たちは、イエスをわなにかけるために自分たちでこの被害者を罪におとし入れたのだった。イエスは、彼らの質問を聞いた様子をなさらずに、かがみこんで、目をじっと地面にそそぎ、土の上に何か書き始められた。」（各時代の希望中巻 246, 247）

- b. イエスは、どのように告発者自身、罪のない者はいないことを示されましたか。またそのとき彼らは何をしましたか（ヨハネによる福音書 8:7-9）。

「告発者たちは敗北した。いま聖潔をよそおった彼らの衣は引きはがされ、彼らは限りない純潔そのものであられるおかたの前に、不義と罪に定められて立っていた。彼らは自分たちの生活のかくれた不義が群衆の前にさらけ出されはしないかとふるえあがった。そしてひとりずつ、頭をたれ、目を伏せて、被害者を同情深い救い主といっしょに残したまま、こそこそと立ち去った。」（各時代の希望中巻 247, 248）

- c. 一般的に、わたしたちみな、告発者に対するイエスの言葉から何を学ぶべきですか（ルカによる福音書 6:42）。

「自分たちにとって過ちがあると見える事柄を改革したが、早まる人々がいるものである。彼らは過ちを犯した人々に自分たちが取って代わるために選ばれるべきだと考える。彼らは自分たちが見て批判している間に、これらの働きの人たちがなしてきたことの価値を軽視する。彼らは自分の行動によって、『わたしは大きなことができる。成功のうちに働きを進めることができる』と言うのである。自分は過ちを避ける方法をよく知っていると考えた人々にわたしは次のように言うよう指示されている。『人をさばくな。自分がさばかれないためである』（マタイ 7:1）。あなたはあな点において過ちを避けることができるかもしれないが、他のことについては深刻な大失敗をしがちである。それらは回復するのが非常に難しく、働きに混乱をもたらすかもしれない。これらの過ちはあなたの兄弟たちが犯した過ちよりもさらに有害であろう。」（教会への証 7 巻 279）

- a. イエスは女の告発者が去った後、彼女に何をお尋ねになりましたか。また状況を対処されたこのお方の方法は、その後の彼女の人生にどのように影響を及ぼしましたか（ヨハネによる福音書 8:10, 11）。

「女は恐怖にすくみながら、イエスの前に立っていたが、『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい』との主のお言葉は彼女にとって死の宣告であった。彼女は救い主を見あげる勇氣もなく、だまって自分の運命を待っていた。しかし驚いたことに、彼女を訴えた人々が、ひと言も言わずに、あわてて去って行くのを見た。それから、『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように』との望みの言葉を聞いたのであった。彼女の心はとけ、イエスの足もとにひれ伏して、彼女はありがたさに泣き、悲しみの涙を流して、その罪を告白した。

彼女にとってこれは新しい生涯、すなわち神に献身した純潔と平安な生涯の始まりだった。この墮落した魂を向上させることによって、イエスは最も重い肉体の病気をいやすよりも大きな奇跡をなされた。すなわち永遠の死にいたる、靈的な病気をおいやしになったのである。この悔い改めた女はキリストの最も変らない弟子のひとりとなった。彼女はキリストのあわれみによるゆるしに対して、自己犠牲の愛と信仰をもって感謝を表示した。社会はこの誤った女を軽蔑し、嘲笑するだけであったが、罪なきキリストは、彼女の弱さをあわれみ、救いのお手をおのべになった。偽善的なパリサイ人が非難しても、イエスは『お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように』とおおじになったのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 59, 60）

「この女をゆるし、もっとよい生活をするように励ましておやりになったイエスの行為を通して、イエスのご品性は完全な義の美しさに輝いている。イエスは、罪を軽く見たり、不義の意識を弱めたりはされませんが、罪に定めようとしなくて、救おうとされる。世の人たちは、過失を犯しているこの女を軽蔑し嘲笑することしかしなかった。だがイエスは、慰めと望みのことばを語られる。」（各時代の希望中巻 249）

- b. キリストの救う恵みの効果を述べなさい（ルカによる福音書 7:37-40, 47, 48）。

「イエスはどの魂の事情もご存じである。罪びとの罪が重ければ重いだけ、救い主を必要とするのである。キリストの神聖な愛と同情心は、敵のわなにかかって、最も望みのない状態になった者に、まず向けられる。キリストはご自分の血で、人類釈放の証書に署名なされた。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 60）

- a. わたしたちの態度、特に他の人々との関係において、何が特徴となるべきですか。またこれほどどのようにしてのみ可能ですか（コリント人への第二の手紙 1:3-5）。

「環境は、魂の経験とそれほど関係がない。わたしたちのすべての行動に色を決めるのは心にいんでいる精神である。神と同胞である人と平和を得ている人はみじめになることができない。妬みは心の中にない。邪推は心の中に居場所がない。憎しみは存在しない。神と調和している心は、この世でのいらだちや試練に超越して引き上げられている。」（教会への証 5 巻 488）

「イエスが慰めの力を経験されたのは、悲しみを通してであった。彼は、人類のすべての苦難お受けになった。『主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである』（ヘブル 2:18、イザヤ書 63:9）。主の苦しみを共に味わった者は、この働きにあずかる特権をもつ。」（祝福の山 15, 16）

- b. キリストの御足の跡に従うことにある類のない希望や特権を述べなさい（コリント人への第二の手紙 1:6, 7）。

「もしあなたがキリストの苦難にあずかる者となることを誇りとして感じないのであれば、もしあなたが滅びつつある人々のために魂の重荷を感じないならば、もしあなたがなされるべき働きのための資金を蓄えるべく犠牲を払いたくないのであれば、神の王国には他のための場所はない。わたしたちは一步ごとにキリストの苦しみと自己否定について、このお方にあずかる者となる必要がある。」（教会への証 9 巻 103, 104）

- c. 三天使のメッセージにおいて信徒たちの間に最も必要とされている資質を述べなさい（コリント人への第一の手紙 13:13, 4-8）。

「神の戒めを守る民が心にいだくべき最も必要な特徴は、忍耐と寛容、平和と愛である。愛が欠けているとき、取り返しのつかない損失をこうむる。」（同上 6 巻 398, 399）

- a. もしクリスチャンが罪に陥ったら、真の信徒はどのように行動しますか。対照的に、偽りの心を持つ信徒は、しばしば何をしますか（ガラテヤ人への手紙 6:1-3; ローマ人への手紙 15:1-3）。

「回復の働きがわたしたちの重荷であるべきことを心にとめていなさい。この働きは、誇り高く、横柄な、主人のようなやり方でなされるべきではない。あなたのやり方によって、『わたしには力がある、わたしはそれを使う』と言い、過ちを犯している人に告発を注ぎ出してはならない。あなたの回復を『柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省し』て行いなさい。わたしたちがなすべき目の前にある兄弟のための働きは、彼らを外に出す働きではない。『あなたはわたしを失望させてしまった。もう助けようとは思わない』と言って、失望と絶望へ追いやることではないのである。自らを知恵と力に満ちた者とし、圧迫され、悩み、助けを切望している人を押さえつける人は、パリサイ人の精神を表し、自己で成り立つ尊厳という衣を身にまとう。その精神において、彼は神に自分が他の人のようでないことを感謝し、自分の取る道は賞賛に値するものであり、自分が誘惑されないほど強いと考える。しかし、『もしある人が、事実そうでないのに、自分が何か偉い者であるように思っているとすれば、その人は自分を欺いているのである』（3節）。」（教会への証 6 巻 398）

「過失を犯している者たちに目をそむけ、彼らが墮落の道を進むのをとめもしないで放っておくのは、キリストの弟子ではない。自分が先頭に立ってほかの人たちを非難し、律法に照して彼らを処断するのに熱心な人々が、自分自身の生活においては相手よりもっと罪深い場合がしばしばある。人間は罪人を憎みながら、一方では罪を愛する。キリストは罪を憎まれるが、罪人を愛される。これがキリストに従うすべての者の精神である。クリスチャンの愛はいつも、人を非難するのに遅く、悔い改めをみとめるのに早く、人をゆるし、励まし、さまよっている者を聖潔の道に歩ませ、彼の足をそこにしっかりとどめるようにするのである。」（各時代の希望中巻 249）

個人的な復習問題

金/5月2日

1. 律法学者とパリサイ人がイエスのためにしかけたわなを説明しなさい。
2. 偽善的なユダヤ人は、外見上、どのように律法に対する敬意を示しましたか。
3. 告発するユダヤ人は、自らについて何を認めざるを得ませんでしたか。
4. 過ちに陥り、悪い扱いを受けた女に与えられた希望を述べなさい。
5. 過ちに陥っている魂を扱うときに、どうしたら、もっとイエスのようになれるか。

イエス、世の光

暗唱聖句：「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。』」（ヨハネによる福音書 8:12）。

「太陽系の月や星が、太陽の光を反射して輝くように、世の偉大な思想家たちは、彼らが真実であるかぎり、義の太陽である神の光を反射しているのである。思想のかがやき、知性のひらめきの一つ一つは、すべて世の光である神から出ている。」（教育3）

推奨文献： 教会への証 1巻 405-409

1. 創造を思い起こす

日/5月4日

a. 創造の第一日目に、神は何を創造されましたか（創世記 1:3-5）。

「世の初めの創造のみことばによって、光が暗やみに照りいでた。」（各時代の希望中巻 251）

b. 世の創造にどなたがご臨在されましたか—ただの見学者としてではなく、能動的な参加者として（創世記 1:1, 2; ヨハネによる福音書 1:1, 2; コロサイ人への手紙 1:16）。

「この世の初めに、神はすべての創造のみわざのうちにご自分をあらわされた。天をのべ、地の基をおかれたのは キリストであった。……地を美しさでみだし、空中を歌でみだされたのはキリストであった。地と空中と空のすべてのものの上に、キリストは天父の愛のことばをお書きになった。」（各時代の希望上巻 2）

「すべての世界を空間にささえ、宇宙の万物を整然たる秩序と倦むことのない活動の中に保つみ手は、われわれのために十字架に釘づけされたみ手である。」（教育 144）

- a. 荒野においてイスラエルの子らはどのように導かれましたか（出エジプト記 13:21, 22）。雲の柱と火の柱に包まれたご臨在について説明しなさい（出エジプト記 13:21（上旬）；コリント人への第一の手紙 10:1-4）。

「神が民にご自身をあらわされるときには、いつも光が神のご臨在の象徴であった。世の初めの創造のみことばによって、光が暗やみに照りいでた。光は、昼は雲の柱に宿り、夜は火の柱となってイスラエルの大軍をみちびいた。」（各時代の希望中巻 251）

- b. 荒野においてイスラエルと共におられたキリストのご臨在について、なんと記されていますか。また神はご自分の民に、どの保護を約束されましたか（詩篇 105:39；イザヤ書 4:5, 6）。

「イザヤの最も美しく、慰めに満ちた預言の言葉のなかで、この雲と火の柱は、悪の勢力との最後の大争闘において、神が、神の民を守られることの象徴として用いられている。」（人類のあけぼの上巻 325）

- c. キリストはシナイで、どのようにご自身を表されましたか。そしてモーセと民はどのように反応しましたか（出エジプト記 19:16-18；20:18, 19；ヘブル人への手紙 12:21）。

「集まった群衆に、『主の栄光は山の頂で、燃える火のように』見えた。……エホバのご臨在のしるしは恐るべきものであったので、イスラエルの群衆は恐ろしさにふるえ、主の前にひれ伏した。」（人類のあけぼの上巻 354）

「〔キリストの〕ご臨在のあらわれがあまりにも栄光に満ちていたため、死すべき人間は耐えることができなかった。モーセは、神に大いに恩寵を受けていたが、『わたしは恐ろしさのあまり、おののいている』と叫んだ（ヘブル 12:21）。しかし、神はこの卓越した栄光に耐えられるように、またその栄光の反射を彼の顔の上を受けて山からたずさえていけるように彼を強められたので、民はそれをしっかりと見ることができなかった。」（神の息子むすめたち 225）

- a. キリストは幕屋でどのようにご自分のご臨在を表されましたか（出エジプト記 40:34, 35）。

「大ぜいのイスラエルの民は聖なる建物を見ようとして、非常な興味をもって群がってきた。彼らが、敬虔な満ち足りた気持ちでこれに見入っているときに、雲の柱が幕屋の上にたなびき、その上にくだり、これを包んだ。そして「主の栄光が幕屋に満ちた」（出エジプト記 40:34）。ここに神の威光があらわされ、しばらくの間、モーセも中にはいることができなかった。民は、彼らの手のわがが受け入れられたしるしを感慨深く見つめていた。人々は、歓喜の声を上げたりはしなかった。厳粛な畏怖がすべての者を包んでいた。だが、心の喜びは涙となってあふれ、神が降りてこられて、自分たちと共に住みになることの感謝が、低くはあったが熱のこもったささやきとなったのである。」（人類のあけぼの上巻 411, 412）

「贖罪所の上方には、神の臨在のあらわれであるシェキナーがあった。神は、ケルビムの間からみころをお知らせになった。神のお告げは時として、雲からの声によって大祭司に伝えられた。また、時として、承認もしくは受容をあらわすために光が右側の天使を照らし、不賛成もしくは拒否をあらわすために、影もしくは雲が左側の天使をおおうこともあった。」（同上 410, 411）

- b. 後に幕屋が献堂されたときに、何が起こりましたか（歴代志下 7:1）。

「山でモーセに示され、後に主によってダビデに提示された型に従って、最も壮麗な聖所が造られた。地上の聖所は天の聖所に似せて作られた。契約の箱の上にいるケルビムに加えて、ソロモンは、契約の箱の両端に立って、神の律法をつねに守っている天使たちをあらわすさらに大きなもう二人の天使を作った。この幕屋の美しさと壮麗さを描写することは不可能である。そこで、幕屋の中にあつたように、厳粛で敬神的な秩序のうちに神聖な箱が担われ、床の上に立っていた二人の堂々たるケルビムの翼の下に置かれた。

聖なる合唱が神への賛美のうちに、あらゆる種類の楽器にその声を合わせた。そして声が音楽の楽器に調和して宮中に響き渡る一方、エルサレム中の空間に運ばれ、神の栄光の雲は、かつて幕屋を満たしたときのように家を取り囲んだ。『そして祭司たちが聖所から出たとき、雲が主の宮に満ちたので、祭司たちは雲のために立って仕えることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである』（列王記上 8:10, 11）。』（霊的賜物 4a 巻 113, 114）

- a. ヨハネによる福音書 8:12 にあるキリストのどのメッセージが、わたしたちに大きな希望をもたらしますか。

「この真理を理解し、その宣布に従事したのは、博学な神学者たちではなかった。もしも彼らが、祈りつつ勤勉に聖書を研究する 忠実な夜回りであったならば、夜の時刻を知ったことであろう。預言は、まさに起ころうとしていたできごとを、彼らに示したことであろう。しかし彼らはそうでなかったために、使命は、彼らより劣る人人によって伝えられた。…神から与えられた光に背をむけ、手近にある光を求めない者は、暗黒のなかに残される。」(各時代の争闘上巻 401)

「主はわたしたちが富んだ、豊かな、喜ばしい経験を持つことができるように、あらゆる備えをしてこられた。ヨハネはキリストに関して記して次のように言っている、『この言に命があった。そしてこの命は人の光であった』(ヨハネ 1:4)。命は光を伴っている。そしてもしわたしたちが義の太陽からの光を持っていなければ、このお方のうちに命を持つことはできないのである。しかし、この光はすべての魂のために備えられているのであり、闇がわたしたちに臨むのは、わたしたちが光から身を引くときだけである。〔ヨハネ 8:12 引用〕。わたしたちのまわりにある世界は、光がなければ命を持つことができない。太陽がその輝きを引っ込めたら、すべての植物、すべての動物の命は終わりを告げる。これは、わたしたちが自らを義の太陽の光線の下に身をおかなければ霊的な命を得ることはできないという事実を描写している。もしわたしたちが花の咲いている植物を暗い部屋においたら、それはまもなくしぼんで枯れてしまう。同様に、わたしたちは幾分かの霊的な命を持っているかもしれないが、疑いと暗やみの雰囲気の中に住むなら、それを失うのである。」(神の息子むすめたち 281)

- b. わたしたちがイエスに向くとき、どの保証がもたらされますか(コリント人への第二の手紙 3:18)。

「花が太陽に向きを変えるときに、太陽の光線が花の美しさや均整を完全なものとするのを助けるように、キリストに従う人々は義の太陽に向きを変えるなら、天の光が彼らの上に輝くことができ、彼らの品性を完全にし、彼らに神の事がらにおいて深い永続的な光を与える。もしわたしたちが自分の人間の努力を神の恵みに結びつけさえすれば、キリストを通してわたしたちの手の届くところに与えられる祝福は想像力を超えている。」(同上 26)

「ひたすら神のみこころを行なおうと願い、すでに与えられた光を熱心に心に留める者はだれでも、もっと大きな光を受ける。そのような魂には、天の光に輝く星が送られて、すべての真理に彼を導くのである。」(各時代の争闘上巻 401)

- a. パウロが世の光に関して靈感を受けて言及したことから、わたしたちはどのように高められますか（コリント人への第二の手紙 4:6）。

「あなたの心が、栄光に輝く神のことについての思いで満たされるようにしなさい。あなたの生活を、イエスの生涯にしっかりと結びつけなさい。やみの中から光が照りいでよと仰せになった神は、イエス・キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、あなたの心を照らしてくださる。聖霊は、神に関することを明らかに示し、従順な者に生きた力を与えるのである。キリストは、あなたを無限の神の門口に導いてくださるのである。あなたは、幕のかなたの栄光を見ることができる。そして、いつも生きていて、わたしたちのためにとりなしておられるお方の十分な力の人びとにあらわすことができるのである。」（キリストの実物教訓 129）

「人間の姿の中にキリストご自身の栄光があらわれることは、天と人間との間を非常に近いものにするのであって、キリストの宿られるすべての魂の中に神の宮の栄光が見られるようになる。そして、内住のキリストの栄光に、人びとは捕えられるのである。こうして、神に導かれた多くの魂の賛美と感謝とは、潮のごとくに、偉大な与え主なる神に栄えを帰すのである。

『起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから』（イザヤ書 60:1）。この使命は、花婿を迎えに出る人びとに与えられている。キリストは、力と大いなる栄光をもって来られる。彼は、ご自分の栄光と父の栄光とをもって来られる。彼は、すべての聖天使をひきいて来られる。全世界が暗黒に閉ざされている時に、聖徒たちの住居にはどこにも光がある。彼らは、キリストが再びおいでになる最初の光をとらえるのである。主は、輝く栄光に包まれておられる。そしてあがない主なるキリストは、お仕えするすべての者の賛美をお受けになる。悪者は、み前からのがれ去るけれども、キリストに従った者は、喜びにあふれる。」（同上 396）

個人的な復習問題

金/5月9日

1. 聖書は、創造の働きにおける神格について、どのように教えていますか。
2. 荒野で、イエスがどのようにご自分を表されたのかを述べなさい。
3. キリストの光は、どのように幕屋と宮の中で輝きましたか。
4. イエスは献堂式のときに、どのようにご自身を表されましたか。
5. キリストはわたしたちに、またわたしたちを通して、どのようにご自身を明らかにされますか。

拒まれた光か、あるいは反射された光か？

暗唱聖句：「主はわたしの光、わたしの救だ、わたしはだれを恐れよう。」(詩篇 27:1)

「キリストは、『すべての人を照らすまことの光』である。人はみなキリストを通して生命を持っているが、同じようにどんな魂もキリストを通して幾らかの天の光が与えられる。」(教育 21)

推奨文献： 教会への証 7巻 18-28

1. 預言された光

日/5月11日

- a. 聖霊はどのようにイザヤを通してイエスに言及されましたか(イザヤ書 49:6)。
- b. シメオンはイエスが献納のために宮に連れて来られたときに、このお方をだれとして認めましたか。またこのことがわたしたちに何を考えさせるべきですか(ルカによる福音書 2:32)。

「年老いたシメオンは、キリストがそのとき教えておられた宮の中で、イエスのことを『異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光』であると言った(ルカ 2:32)。シメオンは、このことばによって、どんなイスラエル人もよく知っている一つの預言をイエスに適用していた。聖霊は、預言者イザヤを通してこう宣言された、『あなたがわがしもべとなつて、ヤコブのもろもろの部族をおこし、イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、いとも軽い事である。わたしはあなたを、もろもろの国びとの光となして、わが救を地の果にまでいたらせよう』(イザヤ書 49:6)。この預言はメシヤについて言われたものと一般に理解されていたので、イエスが『わたしは世の光である』と言われたとき、人々は、イエスをご自分のことを約束のメシヤであると主張しておられるのだとみとめることができた。」(各時代の希望中巻 253)

「このベツレヘムの驚くべき物語は、なんとという教訓を教えていることであろう。それはなんとわれわれの不信、高慢、うぬぼれを 譴責することであろう。それは、われわれもまた、恐るべき無関心に陥って、時のしるしを見分けることができず、そのために神のおとずれの日を知らずに過ごすことがないように、注意するようにとわれわれに警告を与えている。」(各時代の 大争闘上巻 404)

2.

拒まれた光

月/5月12日

- a. キリストの使命に対して、ユダヤ人指導者たちは、どのように反応しましたか（ヨハネによる福音書 1:11; 8:13）。

「パリサイ人や役人たちには、この主張は無礼なもぐりに思えた。彼らは、自分たちと同じような人間がこんな主張をするのをゆるしておくことができなかった。彼らは、イエスのことばを無視した様子で、『あなたは、いったい、どういうかたですか』と聞きただした（ヨハネ 8:25）。彼らは、イエスに自分はキリストであると宣言させたかったのである。イエスの外観とそのわがが民衆の期待とまったくちがっていたので、陰險な敵どもは、イエスが自分はメシヤであると自ら発表されたら、詐欺師として排撃されるであろうと信じたのであった。」（各時代の希望中巻 253, 254）

- b. イエスは信じないパリサイ人たちに対して、どのような明白な説明を提示なさいましたか。それでなお、彼らはどのように応じましたか（ヨハネによる福音書 8:14-18）。

「〔パリサイ人たちは〕、〔キリストの〕神聖なご品性と使命について無知であった。なぜなら、彼らが自分たちの特権であり義務であったようには、メシヤに関する預言を調べてこなかったからである。彼らは神とも天ともつながりがなかった。そのため、世の救い主の働きを理解していなかった。そして彼らはイエスこそ救い主であられるというもつとも説得力のある証拠を受けていたにもかかわらず、理解するために自分たちの思いを開くことを拒んだのであった。最初に彼らはこのお方に反対して自分たちの心を定め、そしてこのお方の神性の最も強力な証拠を信じることを拒み、その結果、彼らの心はこのお方を信じることも受け入れることもしないと決意するところまで頑なになっていった。」（預言の霊 2 巻 354, 355）

- c. イエスはご自身と不信のパリサイ人の間に存在するほどの顕著な対比を述べられましたか（ヨハネによる福音書 8:19-23）。

- d. ユダヤ人指導者たちがキリストを拒んだ致命的な結果は、何でしたか（ヨハネによる福音書 8:24; マタイによる福音書 23:38）。

- a. 自分たちがその罪のうちに死ぬこともあり得ると警告された後に、パリサイ人はイエスを何を尋ねましたか。それはなぜですか(ヨハネによる福音書 8:25(上句))。

「彼らは、イエスのことばを無視した様子で、『あなたは、いったい、どういうかたですか』と聞きただした。彼らは、イエスに自分はキリストであると宣言させたかったのである。イエスの外観とそのわざが民衆の期待とまったくちがっていたので、陰險な敵どもは、イエスが自分はメシヤであると自ら発表されたら、詐欺師として排撃されるであろうと信じたのであった。』(各時代の希望中巻 253, 254)

- b. 救い主は彼らにどのようにお答えになり、それによってこのお方の顕著な御父とのつながりを明らかになさいましたか(ヨハネによる福音書 8:25(下句), 26-29)。

「キリストは神の律法の諸原則への忠誠からそれたことは一度もなかった。このお方はご自分の御父の御心に反するようなことは何も言われなかった。このお方は、御使たちの前で、人の前で、悪霊たちの前で、他の唇から語られたのであれば冒瀆となる言葉を語ることがおできになった。『いつも神のみこころにかなうことをしている』(ヨハネ 8:29)。日々三年間、このお方の敵は、キリストをつけまわし、このお方のご品性に何らかのしみを見つけようとした。サタンは悪の同盟軍を上げて、このお方を打ち負かそうとした。しかし、彼らは自分たちの有利になるものを、何ひとつこのお方のうちに見出さなかった。悪霊どもでさえ、『あなたは…神の聖者です』(ルカ 4:34)と告白せざるを得なかった。』(教会への証 8 巻 208)

- c. ご自分の御父とのキリストの日々の歩みを述べなさい。そして、どのようにわたしたちはこの経験を反映すべきですか(ヨハネによる福音書 15:10; エペソ人への手紙 2:4-6)。

「イエスが人性のうちにおられたように、神はキリストに従う者たちになつてほしいと思っておられる。このお方の力のうちに、わたしたちは、救い主が生きられた純潔と高尚の人生を送るべきである。」(同上 289)

「地上における救い主の生涯は、戦いのさ中であつたが平和な生涯であつた。怒った敵がいつもイエスをねらっていたが、彼は『わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになされることはない』と言われた(ヨハネ 8:29)。人間やサタンの怒りのどんな嵐も、神との完全な交わりの平静さを乱すことはできなかった。』(祝福の山 19)

- a. キリストがバリサイ人たちに刺しとおす真理を語られたとき、このお方の言葉は聞いている人々にどのような影響を及ぼしましたか。今日、なぜこのことがわたしたちの励ましとなるのですか（ヨハネによる福音書 8:30）。

「キリストはどのように落ち着いた知的な方法で行動し、ご自分を有罪にしようとする彼らの計画を無効にするかを理解しておられた。主の言葉は鋭い矢のようで、的を射ており、このお方の告発者の心を傷つけた。キリストが民に語られる時はいつでも、聴衆が多くても少なくても、このお方の言葉に聞いている人のある魂には救う効果があった。キリストの唇から語られるメッセージはいつでも失われることがなかった。このお方が語られる一言一言は、それを聞いた人々に新しい責任を課した。世に対する憐れみの最後のメッセージを伝え、まごころから真理を提示し、神に力をより頼んでいる牧師たちは決して自分たちの努力が無駄になると恐れる必要はない。だれも真理の矢が的をめがけて飛び、聞いている人々の魂を刺し通したかを告げることはできない。人の目はだれも真理の矢が飛んでいるのを見ることができなくても、人の耳が傷ついた魂の叫びを聞かなくても、それでも真理は静かに心に向かう道を切り開いたのである。神が魂に語られた。そして最後の清算の日に、神の牧師は、キリスト、すなわち誉れを受けるべき方に誉を帰すために贖いの恵みの記念品をもって立つようになる。神はすべてをご覧になられ、ご自分の御名によって真理を宣言したものを公に報いて下さるのである。」（サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年2月6日）

- b. 牧師の他に、だれが天からの光を反射させることによって祝福されますか（詩篇 27:1; 147:15; イザヤ書 55:10, 11）。

「牧会に召されていない人々は自分たちのいくつかの能力に従って、主人のために労するよう奨励されるべきである。今何もしていない幾百もの男女は、受け入れられる奉仕をすることができるはずである。真理を自分の友人や隣人の家庭にたずさえていくことによって、彼らは主人のために大きな働きをすることができる。神は人を偏り見る方ではない。このお方は、他のある人たちのように徹底的な教育を受けていなかったとしても、謙遜で献身的なクリスチャンをお用いになる。そのような人は戸別訪問をすることによってこのお方のために奉仕に携わりなさい。炉端に座り、彼らは一もし謙遜で、思慮深く、信心深いならば—いくつかの家族の真の必要に応えるために、按手を受けた一人の牧師よりも、多くのことができる。」（教会への証 7巻21）

- a. イエスはご自分を受け入れたユダヤ人たちに、何と言われましたか（ヨハネによる福音書 8:31, 32）。対照的に、不信者たちはどのように、罪からわたしたちを自由にする唯一の条件を認めるのに失敗したのですか（ヨハネによる福音書 8:33-36）。

「パリサイ人たち」は最悪の種類 of 束縛下にあった一すなわち悪意に支配されていた……

神に献身しようとしないう魂はみな、別の権力の支配下にある。彼は彼自身のものではない。彼は自由を口にするかも知れないが、最もあわれむべき奴隷状態にある。彼の心はサタンの支配下にあるので、真理の美しさを見ることがゆるぎされない。彼は、自分自身の判断の命令に従っているとうぬぼれているが、実は暗黒の君の意思に従っているのである。キリストは、魂を罪の奴隷の束縛から切り離すためにこられた。

あがないの働きに強制はない。外部からの圧力は用いられない。神のみたまの影響下であって、人はだれに仕えるかを自由に選ぶことができる。魂がキリストに屈服するときに行われる変化の中に、最高の意味の自由がある。罪を追い出すことは、その魂自身の行為である。なるほどわれわれは、サタンの支配からわが身を解放する力はない。だが罪から解放されたいと望み、非常な必要を感じて、われわれ以外の、そしてわれわれ以上の力を求めて叫ぶとき、魂の能力には聖霊の天来の力が吹きこまれ、その能力は神のみこころを成就することにおいて意思の命令に従うのである。

人間の自由が可能であるただ一つの条件は、キリストと一つになることである。「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」とあるが、キリストがその真理である（ヨハネ 8:32）。罪は、心を弱め、魂の自由を減ぼすことによるのみ勝利することができる。神に屈服することは、自分自身を回復すること、すなわち人間の真の栄光と威厳とを回復することである。われわれは、神の律法に従うようになったが、それは『自由の律法』である（ヤコブ 2:12）。」（各時代の希望中巻 255, 256）

個人的な復習問題

金/5月16日

1. イエスについてのシメオンの言葉の意味を説明しなさい。
2. 律法学者やパリサイ人たちのキリストに対する取り扱いを述べなさい。
3. イエスを拒むことによって、国家に何が起こることになりましたか。
4. まごころからの魂は一当ても今も一キリストにどのように応じますか。
5. 福音の真理という光に照らして、「自由」の定義を説明しなさい。

イエスとアブラハム

暗唱聖句：「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんで
いた。そしてそれを見て喜んだ。」(ヨハネによる福音書 8:56)

「〔アブラハム〕は、自分が死ぬ前にメシヤを見ることができるようにと最も熱心
な祈りをささげた。そして彼はキリストを見た。」(各時代の希望中巻 259)

推奨文献： キリストの実物教訓 245-247, 304-306

初代文集 260-266

1. アブラハムの子ら

日/5月18日

- a. パリサイ人たちは絶えず、どの主張を繰り返しましたか(ヨハネによる福音書 8:33, 39(上句))。しかし、何がその関係を証明するのですか(ヨハネによる福音書 8:39 (下句), 56; ローマ人への手紙 9:6-8)。

「パリサイ人は、自分たちはアブラハムの子であると宣言していた。この主張はアブラハムのわぎをすることによってのみ立証できるのだと、イエスは彼らにお告げになった。アブラハムの真の子ならば、アブラハムと同じように、神に服従する生活を送るであろう。彼らは、神から与えられた真理を語っておられるおかたを殺そうとはしないであろう。キリストに対して陰謀をくだでているのだから、ラビたちは、アブラハムのわぎをしているとはいえなかった。アブラハムの系図による子孫であるということだけでは、何の価値もなかった。アブラハムと同じ精神を持ち、同じわぎをすることにあらわされる霊的關係がないならば、彼らは、アブラハムの子ではなかった。

この原則は、長い間キリスト教会を騒がせた問題、すなわち使徒の継承という問題に同じように重大な関係がある。アブラハムの子孫ということは、名や血統によらず、品性が似ていることで証明された。同じように使徒の継承は、教会の権威を引き継ぐことにあるのではなくて、霊的な関係にあるのである。使徒たちの精神、彼らが教えた信念と真理の教えとを原動力とする生活—これが使徒の継承の真の証拠である。これが人を福音の最初の教師たちの後継者とならせるのである。」(各時代の希望中巻 256, 257)

2. 自分たちがそうだと自慢していた者ではない 月/5月19日

- a. ユダヤ人は生まれで言えばアブラハムの子孫でしたが、実際には、キリストを拒んだときにだれの子となりましたか (ヨハネによる福音書 8:41-44)。

「イエスは、ユダヤ人がアブラハムの子であることを否定された。『あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っている』とイエスは言われた (ヨハネ 8:41)。彼らは嘲笑して、『わたしたちは、不品行の結果うまれた者ではない。わたしたちにはひとりの父がある。それは神である』と答えた (ヨハネ 8:41)。

このことばは、イエスの生れについての事情をそれとなくさして、イエスを信じ始めた人たちのいる前でキリストに打撃を与えるつもりで言われたのであった。イエスは、この卑劣なあてこすりに注意を払わないで、『神があなたがたの父であるならば、あなたがたはわたしを愛するはずである。わたしは神から出た者、また神からきている者であるからだ』と言われた (ヨハネ 8:42)。

彼らのわざは、嘘つきであり殺人者であるサタンとの関係を証拠だてた。そこでイエスは、こう言われた、「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。……わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしなさい」(ヨハネ 8:44, 45)。イエスが真理を語られたということ、しかも確信をもって語られたということが、彼がユダヤ人の指導者たちに受け入れられなかった理由であった。自分自身を義人とするこれらの人々を怒らせたのは真理であった。真理は誤謬の欺瞞性をばくろした。真理は、彼らの教えと慣習とを非難したので、歓迎されなかった。彼らは自分たちが誤っていたということをけんそんに告白するよりは、むしろ真理に対して目をつぶっていたかった。彼らは真理を好まなかった。たとえ真理であっても、彼らはそれを望まなかった。」(各時代の希望中巻 257, 258)

- b. わたしたちをアブラハムの子とするのは、何ですか。またどのようにユダヤ人の指導者たちは、自分たちが真のアブラハムの子ではないことを表しましたか (ガラテヤ人への手紙 3:6-9; ヨハネによる福音書 8:40)。

「『あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を受けける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。』」(ローマ 8:15)。奴隷の精神は、律法的な宗教に従って生きようとすることによって、すなわち自分自身の力で律法の要求を満たそうと奮闘することを通して生じる。わたしたちにとって、アブラハムの契約の下に来るときにのみ、希望がある。それはキリスト・イエスを信じる信仰による恵みの契約である。アブラハムに説かれた福音、それによって彼が希望を持った福音こそ、今日はわたしたちに説かれた同じ福音であり、それを通してわたしたちは希望を持つのである。アブラハムはイエスを見上げた。このお方はまたわたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられる。」(ユース・インストラクター 1892年9月22日)

- a. このお方の汚されていないご品性に関して、イエスの敵は、どの質問に答えることができませんでしたか（ヨハネによる福音書 8:46（上旬））。

「地上におけるそのご生涯において、キリストは完全なご品性を発達させられた。人のかたちのうちにこの世に来られることにおいて、律法の支配下に入られることにおいて、人の病、悲しみ、罪を負われることを人に表すことにおいて、このお方は罪人になられたのではなかった。パリサイ人たちの前で、このお方は、『あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか』と言うことがおできになった。一つとしてこのお方には罪のしみがなかった。世の前にしみのない神の小羊であられた。」（神の息子むすめたち 25）

「イエスは、天の目の前で、他世界の目の前で、罪深い人々の目の前で、律法を実行された。イエスは、天使たちと人々と悪鬼たちの前で、「わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている」と語られたが、だれもこれに挑戦するものはなかった。もしこのことがほかの人の口から語られたのだったら、冒瀆とみなされたであろう（ヨハネ 8:29）。」（各時代の希望中巻 258）

- b. 人の子としてイエスによって語られたことを除いて、聖書はキリストのご品性について、何と宣言していますか（ヘブル人への手紙 4:15; ペテロの第一の手紙 1:18, 19）。

「キリストをメシヤとして信じる人の信仰は、目に見える証拠に基づくべきではなかった。また彼らはこのお方の個人的に魅力のゆえにではなく、このお方の中に見出す品性の卓越さによって、すなわちかつて他の人のうちには決して見いだされたことも、見出し得ることもない品性の卓越さのゆえに信じるのであった。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホフト・コメント] 7 巻 904）

- c. イエスの生活は、どのようにわたしたちの心に触れますか（ピリピ人への手紙 2:6-8）。

「わたしたちの模範者は、厳しい自己否定と自己犠牲の謙遜な道を、わたしたちのために、わたしたちを救うためにたどられたのではなかったか。このお方はわたしたちを救うご自分の働きにおいて、困難に直面し、失望を経験し、非難と苦悩をこうむられた。そしてわたしたちは栄光の王が導かれる道に従うことを拒むのであろうか。わたしたちは自分たちの贖い主の苦しみを覚えるときに、自分自身のために勝利する働きにある困難と試練につぶやくのであろうか。」（教会への証 3 巻 371）

- a. すべて真にキリストに従う者の目標は何ですか（ペテロの第一の手紙 1:13-16）。

「わたしたちの働きは、自分の行動の領域において、キリストが地上におけるご自分のご生涯においてご品性のすべての局面で到達された完全を得ようと奮闘することである。」（彼を知るために 130）

- b. この目標に、わたしたちはどのように到達できますか（ヘブル人への手紙 12:1-4; ガラテヤ人への手紙 5:6（下旬）；ピリピ人への手紙 3:12-15; 4:13）。

「わたしたちは主なる救い主イエス・キリスト、わたしたちの偉大な教師によって具体的に述べられた完全に、どのように到達できるであろうか。このお方のご要求に応じ、これほど高く掲げられた標準に到達することができるであろうか。わたしたちはできる。さもなければ、キリストがわたしたちにそうするようにと課されはしなかったであろう。このお方がわたしたちの義であられる。このお方の人性において、このお方はわたしたちの前を行かれ、わたしたちのために品性の完全さを実現して下さった。わたしたちは、愛によって働き、魂をきよめるこのお方を信じる信仰を持たなければならない。品性の完全は、キリストがわたしたちにとって何であるかに基づいている。もしわたしたちが自分の救い主の功績に絶えず依存し、このお方の御足の跡に従うならば、このお方のように純粹で汚れのない同じ姿になるのである。」（同上）

- c. わたしたちは実際に神のみ前に、どのように純粹で傷のない者になることができますか（ローマ人への手紙 5:18-20; ヘブル人への手紙 10:14）。

「キリストは悔い改めた者だけ、すなわち、まずご自分が悔い改めさせた者だけをお許しになるのである。」（*セクレット・メッセージ* 1巻 393, 394）

「罪人はカルバリーの方向をいつも見ていなければならない。そして幼子のような単純な信仰をもって、キリストの義を受け入れ、その憐れみを信じて、このお方の義に安んじていなければならない。…

これは何という愛であろう—なんというすばらしい、計り知れない愛—であろう。わたしたちがまだ罪人であった時に、わたしたちのためにキリストが死ぬように導いたとは！律法の強い要求を理解しながら、はるかにそれを越えてなすキリストの恵みを理解しないことは、魂にとって何という損失であろう！」（同上 384）

5.

わたしたちの品性がお方ようになる

木/5月22日

- a. わたしたちはどのように自分の召しと選びを確かなものにすべきですか (ペテロの第二の手紙 1:4-11; ヨハネの黙示録 19:8)。

「神は、アダムに要求されこと、すなわち、完全な品性、傷のない義、このお方の目からご覧になって不足のないことを、いま要求なさる。神はわたしたちが、ご自分の律法が要求するすべてのものをわたしたちがご自分に捧げるために助けて下さる。わたしたちはキリストの義を日常の習慣に持ち込む信仰がなければ、これをなすことはできない。」(レケッド・メッセージ 2 卷 381)

「サタンが支配しているかぎり、われわれは自我を静めて、絶えずつきまとう罪のうち勝たねばならない。生きていくかぎり、留まる場所もなければ、完全にやり遂げたとと言えるところもない。きよめは生涯の服従から生じるものである。」(患難から栄光へ下巻 264)

「わたしたちはこのお方を信じることを通して、神性にあずかり、それによって世にある欲のために滅びることをまぬかれる者となることが、わたしたちの特権であることを悟らなければならない。そのとき、わたしたちはあらゆる罪から清められる。罪の傾向を一つとして残しておく必要はない。…

神性にあずかるにつれ、悪への遺伝的また後天的傾向は品性から切り離され、わたしたちは善のための生きた力とされる。神なる教師からつねに学び、日ごとにこのお方の性質にあずかりながら、サタンの誘惑に勝利することにおいて神と協力するのである。神が働かれ、人も働く。こうしてキリストが神と一つであられるように、人がキリストと一つになれるためである。…

わたしたちに勝利する力を与えて下さるのは神である。このお方のみ声を聞いて、このお方の戒めに従う人々は義なる品性を形成することができるようにされる。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホト・コメント] 7 卷 943)

個人的な復習問題

金/5月23日

1. パリサイ人は、なぜ自分たちの血縁に基づいては、永遠の命をわがものと主張できなかったのですか。また今日なぜだれも、救いのしるしとして家系や DNA に信頼することができないのですか。
2. 真のアブラハムの子らの特徴を説明しなさい。
3. ご自分のご品性に関して、イエスは何と宣言することがおできになりましたか。
4. すべてのクリスチャンの前に、どの目標が置かれていますか。
5. わたしたちはどのようにして神のみ前に完全で傷のないものとして見いだされることができますか。

イエスと盲人

暗唱聖句「そこでイエスは言われた、「わたしがこの世にきたのは、さばくためである。すなわち、見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになるためである」。(ヨハネによる福音書 9:39)

「ヨブの経歴は、苦難はサタンから与えられ、神が、あわれみの目的をもってそれを支配されるということを示していた。」(各時代の希望中巻 264)

推奨文献： 教会への証 3巻 570-575

1. 誤解される

日/5月25日

- a. 生まれつき盲人であった人を見たとき、弟子たちはイエスにどんな質問をしましたか(ヨハネによる福音書 9:1, 2)。
- b. 苦悩に関して、どのような誤った考えがユダヤ人と弟子たちの両者にありましたか。またサタンはそれによってどのように益を受けていましたか(ヨハネによる福音書 9:34 (上句))。

「罪はこの世で罰せられると、ユダヤ人は一般に信じていた。あらゆる苦難は、苦しんでいる本人か、あるいはその両親が何か悪いことをした罰だと考えられていた。なるほどあらゆる苦難は神の律法を犯した結果であるが、この事実は曲解されていた。罪とそのすべての結果の張本人であるサタンは、病気と死は神から出るもの、すなわち罪の故に神が勝手に人に課せられる罰であると人々に考えさせていた。だから何か大きな苦難やわざわざに見舞われた人は、大罪人としてみられるという余計な重荷まで負わされた。」

こうしてユダヤ人が、イエスをこぼむ道が用意された。『われわれの病を負い、われわれの悲しみをになった』おかたが、『打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ』とユダヤ人からみなされ、彼らはイエスに対して顔をおおった。」(各時代の希望中巻 263, 264)

- a. イエスのどの答えが、苦しみや罪に関して光を降りそそぎましたか (ヨハネによる福音書 9:3-5)。

「罪と苦難との関係についてのユダヤ人の信念は、キリストの弟子たちのうちにもあった。イエスが、彼らの誤りを正されたとき、主は、その男の苦難の原因を説明しないで、その結果をお告げになった。すなわちその苦難の故に神のみわざがあらわされるといのである。『わたしは、この世にいる間は、世の光である』とイエスは言われた (ヨハネ 9:5)。」(各時代の希望中巻 264)

- b. イエスはそれからすぐ後に何をなさいましたか。またどのように盲人はイエスに協力しましたか (ヨハネによる福音書 9:6, 7)。

「それからイエスは、その盲人の目にどろを塗り、シロアムの池に行って洗わせられた。するとその男の視力が回復した。このようにしてイエスは、弟子たちの質問に実際的な方法でお答えになったが、好奇心から出た質問にはたいていこんな答え方をされた。弟子たちは、だれが罪を犯したとか犯さなかったとかいう質問を議論するのではなく、盲人に視力をお与えになった神の力と恵みを理解するように求められた。どろや、盲人が洗いに行かされた池にいやしの力があつたのではなく、その力はキリストのうちにあつたことは明らかであつた。」(同上 264, 265)

- c. 回復された男の隣人たちのさまざまな反応を述べなさい。また続いて起こった彼とその隣人たちの間の会話を述べなさい (ヨハネによる福音書 9:8-12)。

「その若者の隣人や、彼が盲人であることを前から知っていた人たちは、『この人は、すわってこじきをしていた者ではないか』と言った (ヨハネ 9:8)。彼らは疑わしげに彼を見た。彼は、目があいたら、顔つきが変って明るくなり、ほかの人のようにみえたからである。人から人へ疑問が伝わった。ある人たちは、「その人だ」と言い、他の人たちは、「あの人に似ているだけだ」と言った。しかしこの大きな祝福を受けた本人が、「わたしがそれだ」と言って、疑問を解決した。」(同上 265)

3. 質問はさらに拡大する

火/5月27日

- a. ユダヤ人指導者たちは生まれつき盲人であった人をだれのところに連れて行きましたか。それはなぜですか。どの日に彼は癒されましたか(ヨハネによる福音書 9:13, 14)。
- b. パリサイ人の反応を述べなさい(ヨハネによる福音書 9:15, 16)。

「パリサイ人たちは、イエスが罪人であって、メシヤではないということを言いたかったのである。彼らは、盲人をいやしたおかたが、安息日をつくってそのすべての義務を知っておられるおかたであることを知らなかった。彼らは、安息日を守ることにはふしぎなくらい熱心にみえたが、それにもかかわらずその日に殺人を計画していた。」(各時代の希望中巻 265, 266)

- c. いやされた人について証をするために、パリサイ人たちはだれを呼びましたか(ヨハネによる福音書 9:18, 19)。

「[パリサイ人たち]はこの男の両親を呼び、たずねて言った、『これが、生れつき盲人であったと、おまえたちの言っているむすこか』(ヨハネ 9:19)。

自分は生れつき盲人であったのに目がみえるようになったのだと断言している当の本人がいるのに、パリサイ人たちは、自分たちの誤りをみとめるよりはむしろ自分自身の目を見た証拠を否定したかった。それほど偏見は根強く、それほどパリサイ人の義はゆがめられていた。」(各時代の希望中巻 266)

- d. 先入観的な意見を持つことの遠大に及ぶ悪に対して、わたしたちはどのように警告されていますか(箴言 18:13)。

「自分たちの聞いたことに対して、自分自身の解釈をほどこし、語り手が表現しようと努力したこととは全く違った思想に見せてしまう人が多い。ある人は自分自身の偏見や先入観という媒介を通して聞き、物事を自分の望むとおりに一自分の目的に最もよく合うように一聞くのである。」(教会への証 5 巻 695)

- a. パリサイ人は生まれつき盲人であった男の両親を、どのように脅そうとしましたか。そして彼らはどのように応えましたか（ヨハネによる福音書 9:20, 21）。彼らはなぜ責任を逃れるような答えをしたのですか（ヨハネによる福音書 9:22, 23）。

「パリサイ人たちにとって一つの望みが残っていた。それはこの男の両親を脅迫することであった。真心をよそおって、彼らは、『それではどうして、いま目が見えるのか』とたずねた（ヨハネ 9:19）。両親はやっかいな問題にまきこまれるのを恐れた。なぜならイエスをキリストとみとめる者はだれでも『会堂から追い出す』、すなわち三十日間会堂にはいらせないということが布告されていたからである（ヨハネ 9:22）。この期間中は、違反者の家庭では割礼を施すこともできないし、死者をいたむこともできなかった。だからこの宣告をくだされることは非常なわざわいとみなされていた。もし悔い改めがみられなければ、もっと重い刑罰が加えられた。両親は息子のためになされたすばらしいみわざを通して確信を与えられていたが、それでもこう答えた、『これがわたしどものむすこであること、また生れつき盲人であったことは存じています。しかし、どうしていま見えるようになったのか、それは知りません。また、だれがその目をあけて下さったのかも知りません。あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう』（ヨハネ 9:20, 21）。こうして彼らは責任を全部自分たちから息子へ移した。彼らはあえてキリストを告白しようとしなかった。」（各時代の希望中巻 266, 267）

- b. 脅しに圧迫されるとき、わたしたちは何を心にとめていなければなりませんか（詩篇 118:6）。

「固く立ちなさい。そして臆病と呼ばれるよりもむしろ、決して悪の行為を行ってはならない。どんなあざけりや、脅し、嘲笑的な言葉にも、あなたは最も小さな詳細において自分の良心を犯すことがあってはならない。」（クリスチャン教育の基礎 93）

「クリスチャン品性は、目的の堅固さ、不屈の決意、すなわち地も黄泉も形作ったり、征服したりできないものによって特徴づけられるべきである。世俗の誉れの魅力に対して盲目でない人、脅しに無関心でない人、魅惑に動じる人は、まったく自分で予期しないときに、サタンの考案によって倒されるであろう。」（教会への証 4巻 543, 544）

「わたしたちは神の律法の反対するアドベンチストたちから、もっとも激しい反対を受けるであろう。しかし、エルサレムの城壁の建設者たちのように、わたしたちは報告によって、あるいは議論や論争を望む使命者たちによって、あるいは脅迫や、いつわりの流布、またサタンが扇動しうりかなる策略によって、わたしたちの働きからそらされたり、妨げられたりすべきではない。」（同上 3巻 574）

- a. 神の戒めを守る民が直面することになる光景を述べなさい。またわたしたちはそれにどのように応じるべきですか（ヨハネの黙示録 12:17; 使徒行伝 4:18-20）。

「争闘が新しい分野に及び、ふみにじられた神の律法に人々の心が向けられるとき、サタンは騒ぎ出す。使命に伴う力は、それに反抗する人々を怒らせるだけである。牧師たちは、その光が彼らの群れの上に輝かないようにと、ほとんど超人的な力で、それをさえぎろうとする。彼らは、あらゆる手段に訴えて、これらの重大な問題に関する討論を圧迫しようとする。教会は、政権の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにつれて、戒めを守る人々に対して法令が公布される。彼らは、罰金や投獄をもって脅かされる。そして、ある者は有力な地位によって、また他の者は報賞や便宜の提供によって、信仰を放棄するよう勧誘される。しかし彼らは、断固として、「われわれが誤っていることを神の言葉によって示してほしい」と答えるのである。これは、同様の状況の下でルターが行なったのと同じ訴えである。法廷に呼び出された者たちは、真理の力強い弁明をする。そして、それを聞く者の中には、神のすべての戒めを守るという立場をとるよう導かれる者が出てくる。こうして、他の方法ではこれらの真理を知ることができない幾千という人々の前に、光がもたらされるのである。」（各時代の争闘下巻 377）

- b. 反対に直面する際、わたしたちはいつも何を心にとめていなければなりませんか（ヨハネによる福音書 9:39; 使徒行伝 4:33; マタイによる福音書 10:28）。

「〔使徒たち〕はどんな脅迫によっても、拘束されたり脅かされたりすることはなかった。」（患難から栄光へ上巻 44）

個人的な復習問題

金/5月30日

1. ユダヤ人指導者たちは、病人や苦しむ人をどのように判断しましたか。
2. 盲人を本当に癒したのは、どなたであり、何でしたか。
3. 盲人の隣人たちはなぜ混乱し始めたのですか。
4. 自分がいやされた後、若者はどのような状況に直面しなければなりませんでしたか。
5. わたしは彼の両親が陥ったわなに落ちることをどのように避けるべきですか。

第一安息日献金 インドのタミル ナードゥ州の二つの礼拝堂

考古学的証拠によると、紀元前 2600 年頃には、高度に都市化されたインダス文明が、今日のインドとして知られる亜大陸にすでに居住していたことを示唆しています。この地域の主な宗教的影響は、ヒンズー教 (79.8%) で、イスラム教 (14.2%)、キリスト教 (2.3%)、シーク教 (1.7%) などが続いています。1920 年代と 1950 年代に SDA 改革運動との接触があったという報告はありますが、北インドが SDARM 総会代表団セッションに初めて公式に代表されたのは 1987 年のことでした。



インド最南端の州であるタミル ナードゥ州は、産業と農業の両方で大国と考えられています。主の働きは長年にわたってこの地に確立されてきま

ましたが、この州の 7,200 万人を超える膨大な人口に奉仕するには、より広範な奉仕が必要です。

2001 年のインド国勢調査によると、パティヴェーランパッティ村の人口は 7,744 人です。平均識字率は 83% で、全国平均の 59.5% (文学に有利) よりも高くなっています。

ここでの主な生計手段はコーヒーで、バナナ、オレンジ、カルダモン、コショウ、その他のスパイスがそれに続きます。パラパッティは人口 13,701 人の大きな村です。

1998 年以来、ベリヤラム出身の伝道師のたゆまぬ努力により、特にこの 2 つの地域で教会員の数が増加しました。さまざまな問題により、借家でやっていくのが非常に困難になっているため、現時点では、パティヴェーランパッティ村とパラパッティ村の兄弟たちは礼拝のために自分たち自身の所有する場所を必要としています。

預言の霊は、インドを次のような場所として述べています。「神について、キリストのうちにあらわされた神の愛について、まだきいたことのない人々が幾百幾千万という。彼らはこの知識を与えられる権利を持っている。彼らはわれわれと同様に救い主の愛をうける資格がある。」(教育 311) したがって、私たちは世界中の兄弟姉妹に、主がこの地で輝くための灯台を建てるために寛大な支援を申し出るよう、謹んでお願いしたいと思います。「神の戒めを擁護し、神の律法に生じた破れを繕う働きに、私たちは苦しむ人類への同情を混ぜ合わせなければならない。私たちは神に最高の愛を示し、神の記念碑を高めなければならない。」(福祉伝道 32)。ありがとうございます。そして、主が贈り物と贈り主を祝福してくださいますように!

パティヴェーランパティとパラパティから皆さんの兄弟姉妹より

靈的な盲目に直面する

暗唱聖句：「だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。」(マタイによる福音書 12:31, 32)

「人々の目をめくらにし、心をかたくなにするのは神ではない。神は彼らのあやまちを正し、彼らを安全な道にみちびくために光をお送りになる。目がめくらになり、心がかたくなになるのは、この光をこぼむからである。」(各時代の希望中巻 39)

推奨文献： 教会への証 2 巻 489-497

1. 新たになされた尋問

日/6月1日

- a. イエスが視力を回復なさった若者を二回目に招集し、パリサイ人は彼に強制的に何をさせようとしていましたか (ヨハネによる福音書 9:24)。

「パリサイ人たちは、自分たちが、イエスによってなされたみわざを宣伝していることに気がついた。彼らは、奇跡を否定することができなかった。盲人はよろこびと感謝に満ちていた。彼は、自然界のすばらしいものを目に見、地と空の美しさを見てよろこびに満たされた。彼は、遠慮なく自分の経験を語った。するとまた彼らは、彼をだませようとして、『神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人であることは、わたしたちにはわかっている』と言った (ヨハネ 9:24)。あの人がおまえの目を見えるようにしてくれたと二度と言うな、おまえの目が見えるようにしてくださったのは神であるというのだった。」(各時代の希望中巻 267, 268)

- b. 若者は、どのような反ばくできない議論を提示しましたか (ヨハネによる福音書 9:25)。

- a. パリサイ人たちは再び視力の回復された若者に何を尋ねましたか。そして彼らの実際の目的は何でしたか (ヨハネによる福音書 9:26)。

「すると〔パリサイ人たち〕は、もう一度たずねた『その人はおまえに何をしたのか。どんなにしておまえの目をあけたのか』(ヨハネ 9:26)。彼らは、いろいろなことを言っ
てこの男を混乱させ、自分はだまされたのだと考えるようにしむけた。サタンと悪
天使たちは、パリサイ人のがわにいて、キリストの感化力を打ち消すために彼らの
勢力とずるさを人間の理性と結合させた。彼らは、多くの人々の心に強まりつつあ
った確信をくもらせた。」(各時代の希望中巻 268)

- b. 若者は彼らにどのように答えましたか。またこのように彼に靈感を与えるためにかたわらに立っていたのは、だれでしたか (ヨハネによる福音書 9:27)。

「神の天使たちもまたその場において、視力を回復してもらった男を力づけた。
パリサイ人たちは、生れつき盲の無教育なこの男よりもほかのおかたを相手にし
なければならないことに気がつかなかった。彼らは、論争している相手のおかたを
知らなかった。天来の光がこの盲人の魂の奥底にさし込んだ。これらの偽善者た
ちが彼に信じさせないようにしようとしたとき、神は、この男の力強く鋭い答によつて、
彼がわなにおちいるような人間ではないことをお示しになった。」(同上)

- c. 今日、どのように同じ助けが保証されていますか (ルカによる福音書 12:11, 12)。

「今、あなたは聖書をもって神のみ前に行き、み前でそれを開き、神に嘆願したい
と思っている。あなたは自分の理解力が鋭くなることを願っている。自分が本当
の真理の諸原則を知っていること、そして反対に直面するとき、それらに自分自身
の力で対応しなくて良いことを確かめたいと思っている。神の御使があなたの右側
に立ち、あなたに尋ねられるすべての質問に答えるのを助けて下さるであろう。し
かし、同時にサタンがあなたの反対者の右側に立ち、あなたが無分別に語るよう
挑発するために、彼らをかき立ててあなたに耐えがたいことを言わせるであろう。
しかし、あなたの会話は、サタンがあなたの言葉を何も有利に用いることができな
いようなものにしなさい。」(ビュー・アンド・ハルト 1887年5月3日)

- a. 回復された若者を欺くことができないので、パリサイ人は彼をどのようにけなしましたか。そしてこのような無知が歴史を通じて、どのように表されてきましたか(ヨハネによる福音書 9:28, 29; コリント人への第一の手紙 1:18, 19, 26-28)。

「神は、各時代の神の教会に、その時、その時にふさわしい特別な真理と特別な仕事をお与えになった。世の知者、学者にはかくされた真理が、幼児のようなけんそんな者にあらわされた。真理は自己犠牲を要求する。戦いもあれば、勝利も得なければならない。初めのうち、支持者の数は少なく、世の偉大な人びとや俗化した教会からは、反対され、軽べつされた。」(キリストの実物教訓 55)

「現代の大宗家たちは、幾世紀も前に真理の種を植えた者をほめたたえて、その記念碑を建てる。ところが、そうする一方、彼らは今日、その同じ種から生じてきたものをふみにじることが多いのではないだろうか。『モーセに神が語られたという事は知っている。だが、あの人[キリストにつかわされた使者はキリストを代表している]どこから来た者か、わたしたちは知らぬ』という叫びが依然として繰り返されている(ヨハネ 9:29)。初期におけると同様に、現代に対して特別に与えられた真理は、教会の権威者のところに見いだされるのではない。それは、これといった学識も知恵もないけれども、神のみことばを信じる男女のところにあるのである。」(同上 56)

- b. 若者のまごころからの証や他のキリストを信じる正直な信徒と共に、どの模範を学ぶことができますか(ヨハネによる福音書 9:30-33; 使徒行伝 4:19, 20)。

「慎みをつくして、恵みの精神のうちに、神の愛のうちに、わたしたちは主なる神が天地の創造主であられるということ、また第七日目が主の安息日であるという事実を人々に指し示すべきである。

主の御名において、わたしたちはこのお方の旗印をなびかせ、このお方のみ言葉を擁護して、前進すべきである。当局がわたしたちにこの働きをしてはならないと命じるとき、彼らが神の戒めとイエスの信仰を宣布することを禁じるとき、そのときわたしたちは使徒たちと共に次のように言う必要がある。『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない』(使徒行伝 4:19, 20)。(教会への証 6 巻 395)

- a. 怒ったパリサイ人たちは証拠を受け入れたくないために、自分の癒しを証した若者をどのように扱いましたか(ヨハネによる福音書 9:34)。

「この男は、相手の立場に立って、審問者たちに応じた。彼の議論には答えることができなかった。パリサイ人たちは驚いてしまった。彼らはこの男の鋭い、断固たることばの前にすくんだようになって、だまってしまった。しばらく沈黙がつづいた。それから、ふきげんな顔をした祭司たちとラビたちは、この男との接触から汚れてもうつされるかのように、衣をひきよせた。彼らは足のちりを払い、『おまえは全く罪の中に生れていながら、わたしたちを教えようとするのか』とのおどし文句を浴びせた(ヨハネ 9:34)。そして彼らはこの男を破門した。」(各時代の希望中巻 269)

- b. 対照的に、イエスはこの若者を、どのように扱われましたか(ヨハネによる福音書 9:35-38)

「男は、救い主の足下にひれ伏して主を拝した。彼は肉眼が見えるようになったばかりでなく、さとの目も開かれたのだった。彼の魂にキリストがあらわされたので、彼は、キリストを神からつかわされたおかたとして受け入れた。」(同上 270)

- c. 傲慢な反逆者を追放するのと、キリストを頑なに盲目的に拒絶する人が神を愛して従う魂を破門することの大きな違いを説明しなさい(列王記上 9:6-9; マタイによる福音書 12:31, 32; 詩篇 11:3)。

「〔ウイクリフ〕は、…だれでも先ず神から罪の宣告を受けることなくして、破門されることはあり得ない、と断言した。」(各時代の争闘上巻 90)

「それぞれの時代において、その時代に特に適切な現代の真理を伝えるために神に用いられる者は、すべて、反対に会わなければならない。ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別重要な真理があった。.... この時代の真理を伝える者は、初期の改革者たちより歓迎されると期待してはならない。真理と誤謬、キリストとサタンとの間の争闘は、この世界の歴史の終わりまで、激しさを増すのである。」(同上 168, 169)

5. 光によって祝福される 対 裁かれる

木/6月5日

- a. イエスはご自分の働きの結果に関して、何と言われましたか（ヨハネによる福音書 9:39）。

「一群のパリサイ人たちが近くに集まっていたが、彼らをごらんになったイエスの心には、ご自分のことばとみわざの効果にいつもはつきりあらわれる相違が浮かんた。…キリストは盲人の目を開き、暗黒のうちにある人々に光を与えるためにおいでになった。彼は、ご自分が世の光であることを宣言しておられたが、いま行われた奇跡は、イエスの使命を証明した。救い主の来臨の時に主を見た人たちは、前の時代の人々が受けたよりも一層深い神のご臨在のあらわれを示された。神についての知識は、もっと完全にあらわされた。しかしこのようにあらわされたことによって、さばきが人々の上にくだっていた。彼らの品性が試みられ、その運命が決定された。」（各時代の希望中巻 270, 271）

- b. パリサイ人たちはキリストの言葉に、どのように反応しましたか（ヨハネによる福音書 9:40）。彼らにお語りになったとき、イエスはどのように彼ら自身の盲目のゆえに彼らの罪を明らかにされましたか（ヨハネによる福音書 9:41）。

「天来の力のあらわれは、この盲人に肉眼の視力と霊的視力とを与えたが、それはまたパリサイ人を一層深い暗黒のうちに残した……。もし神が、あなたがたが真理を見ることができないようにされたのだったら、あなたがたの無知に罪はない。しかし今あなたがたは見えると言う。あなたがたは自分は見えると信じて、目の見える唯一の方法をこぼんでいる。自分の必要をみとめるすべての者のために、キリストは無限の助けをもってこられた。だがパリサイ人たちは、必要を告白しようとしなかった。彼らは、キリストのみもとに行くことをこぼんだ。だから彼らは、盲のままにとり残された。その盲は、彼ら自身の罪である。イエスは『あなたがたの罪がある』と言われた（ヨハネ 9:41）。」（同上 271）

個人的な復習問題

金/6月6日

1. かつて盲目だった人に、パリサイ人たちは何を納得させようとしたか。
2. 不信のパリサイ人たちを用いていたのはだれでしたか。
3. 明快で説得力のある答えができるように、だれが若者を助けましたか。
4. 若者が勇敢に公にキリストを告白したとき、何が起こりましたか。
5. 最悪な形態の盲目は何であるかを説明しなさい。それはなぜですか。

イエス、良い羊飼いです

暗唱聖句：「わたしはよい羊飼いです。よい羊飼いは、羊のために命を捨てる。」(ヨハネによる福音書 10:11)

「キリストは門であり、また羊飼いです。主はひとりでおはいりになる。キリストが羊の羊飼いとされるのはご自身の犠牲を通してです。」(各時代の希望中巻 275)

推奨文献： 各時代の希望中巻 272-282

1. 盗人と羊飼いです

日/6月8日

a. イエスは盗人と羊飼いをどのように区別されましたか。そしてこのお方はどのような霊的な教訓を例証されましたか(ヨハネによる福音書 10:1, 2)。

「キリストは、これらの預言を [イザヤ書 40:9-11、詩篇 23:1、エゼキエル書 34:23, 16, 25, 28] ご自分にあてはめ、ご自身の性格とイスラエルの指導者たちの性格との相違をお示しになった。パリサイ人たちは、キリストの力についてあえてあかしをたてたという理由で、ひとりの人間をかこいの中から追い出したばかりであった。彼らはまことの羊飼イエスがご自分のもとにひきよせようとしておられた魂を追い出した。このことによって、彼らは、自分たちにまかされている働きについて無知であることと、羊の群れの牧者として信任される価値のないことをばくろした。イエスは、いま彼らとまことの羊飼との相違を彼らの目の前に示し、ご自身を主の群れのまことの番人としてさし示された。」(各時代の希望中巻 273)

「キリストはわたしたちが無力で依存するものであるから、わたしたちを愛される。」(説教と講和 1 巻 248)

b. 羊とその羊飼いの間には、どの関係が存在しますか(ヨハネによる福音書 10:3, 4)。知らない人の前で羊は何をしますか(ヨハネによる福音書 10:5)。

- a. イエスはパリサイ人たちに対して、どのようにご自分が対照的であることを明らかにされましたか(ヨハネによる福音書 10:7-10)。

「キリストは神の囲いの門である。大昔から、神の子らはみなこの門を通ってはいって行った。イエスは、型に示され、象徴に予表され、預言者たちの啓示にあらわされ、弟子たちに与えられた教訓を通してあらわされているが、そのイエスのうちに、また人の子らのためになされた奇跡のうちに、彼らは『世の罪を取り除く神の小羊』を見(ヨハネ 1:29)、また、イエスを通して、主の恵みという囲いの中につれてこられた。多くの人々が現れて、世の信仰の対象としてほかのものを示した。人々は、儀式や制度を作り出し、それによって義とされ、神とやわらいで、神の囲いにはいることを望んでいる。しかしただ一つの門は、キリストである。キリストの代りになるような何かを置いたり、何かほかの道から囲いにはいろうと試みた者は、みな盗人であり、強盗である。

パリサイ人は門からはいらなかった。彼らは、キリスト以外の方法で、囲いによじのぼってはいったのであって、真の羊飼いの働きを果していなかった。祭司たちや役人たち、律法学者たちやパリサイ人たちは、生きた牧草地をだめにし、生命の水のみなもとをけがした。靈感のみことばは、こうした偽りの羊飼いをありのままにこうえがいている、『あなたがたは弱った者を強くせず、病んでいる者をいやさず、傷ついた者をつつまず、迷い出た者を引き返らせず、... 彼らを手荒く、きびしく治めている』(エゼキエル書 34:4)。(各時代の希望中巻 274, 275)

- b. 真の羊飼いは雇われた人と、どのように違いますか(ヨハネによる福音書 10:11-13)。

「単に説教ができるだけでなく、信心の奥義の経験的な知識を持つ人々、民の緊急の必要に応じることができる人、すなわちイエスの僕としての自分の立場の重要性を自覚し、イエスがどのように担うべきかを教えて下さった十字架を注意深く取り上げる人が欠乏している。

牧師が自分の民と密接に交わり、こうして人間の性質のさまざまな局面になじむことは非常に重要である。彼は、自分の教えを聴衆の知性にあわせることができるように、思いの働きを研究すべきである。こうして彼は人間の性質と必要を厳密に研究する人々だけが持つことのできる壮大な愛を学ぶのである。」(福音宣伝者 191)

3. 典型的な良い羊飼い

火/6月10日

- a. イエスは、他にどのような良い羊飼いの特徴をあらわしましたか(ヨハネによる福音書 10:14, 15)。

「この世の羊飼が自分の羊を知っているように、天の羊飼イエスは、世界じゅうにちらばっているご自分の羊の群れを知っておられる。『あなたがたはわが羊、わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる神は言われる』。イエスは『わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ』。『わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ』と言われる(エゼキエル書 34:31、イザヤ書 43:1、49:16)。

イエスは、われわれを個人的に知っておられ、われわれの弱さを感じて心を動かされる。イエスはわれわれの名前をみな知っておられる。イエスはわれわれの住んでいる家を、またその家に住んでいるひとりびとりの名前を知っておられる。イエスは、時々、ご自分のしもべたちに、どこそこの町の何という通りのこれこれの家に行つてわたしの羊の一匹をさがしなさいと命じられた。

ひとりびとりは、あたかも救い主がその者のためだけに死なれたかのように、よくイエスに知られている。ひとりびとりの悲嘆はイエスの心を動かす。助けを求める叫びはイエスの耳に達する。イエスはすべての人をみもとに引きよせるためにおいでになった。イエスは彼らに、『わたしに従つてきなさい』とお命じになる。するとみたまが彼らの心に働いて、彼らがみもとにくるように引きよせる。多くの者は引きよせられるのをこぼむ。イエスはそれがだれであるかをご存知である。イエスはまた、ご自分の呼び声をよるこんできて、羊飼であられるイエスの守りに身をゆだねようとする者をご存知である。『わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る』とイエスは言われる(ヨハネ 10:27)。イエスは、この地上にほかにだれもいないかのように、ひとりびとりを気づかわれる。」(各時代の希望中巻 276, 278)

- b. 他にどの羊に、イエスは心づかいを表されましたか(ヨハネによる福音書 10:16)。

「イエスは、にせの羊飼にまちがった道へ連れて行かれた全地の魂に思いをよせられた。イエスがご自分の牧場の羊として集めようと熱望された人たちが、狼の間にちりぢりになっていた。そこでイエスは、『わたしにはまた、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう』と言われた(ヨハネ 10:16)。」(同上 281)

「神はすべての教会に宝石を持っておられる。そしてわたしたちのなすべきことは、公言する宗教界を非難で一掃することではなく、かえって謙遜と愛のうちにイエスのうちにあるがままの真理をことごとく提示することである。人々が敬神と献身を見ることができるようにならう。品性にキリストのかたちを見ることができるようになり、彼らが真理にひきつけられるようにしよう。」(SDA バイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 4 巻 1184)

- a. イエスはどの神聖な力を持っておられると宣言されましたか (ヨハネによる福音書 10:17, 18)。

「父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである」(ヨハネ 10:17)。すなわち、父はあなたを深く愛されたので、あなたをあがなうために自分の生命をささげたわたしをますます愛してく下さるのである。わたしの生命をささげることによって、あなたの負債、あなたの罪とがを引き受けることによって、わたしがあなたの身代わりまた保証となったために、わたしは父から愛されているのである。

『命を捨てるのは、それを再び得るためである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある』(ヨハネ 10:17, 18)。イエスは、人類家族の一員として死ぬべき身であられたが、一方また、神として世の人々のための生命の泉であられた。イエスは死の前進をとどめ、その主権の下にはいることをこぼむこともおできになった。だが主は、生命と不死を明るみに出すために、自発的にご自分の生命をお捨てになった。イエスは、人類が永遠に滅びることがないように、ご自分が世の罪を負い、罪ののろいに耐え、ご自分の生命をいけにえとしてささげられた。『まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。…彼はわれわれのとがのめに傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた』(イザヤ書 53:4-6)。(各時代の希望中巻 281, 282)

- b. 民がキリストに従うように導くのは何ですか (ヨハネによる福音書 10:27; ヨハネの第一の手紙 4:10, 19)。

「弟子たちがキリストに従うのは、罰を恐れるとか、永遠の報いを望むからではない。彼らは、ベツレヘムの馬ぶねからカルバリーの十字架にいたるまで、この地上における旅路を通じてあらわされた救い主の比類のない愛を見る。そのキリストのお姿が彼らをひきつけ、魂をやわらげ、征服するのである。イエスを仰ぎ見る者の心のうちに愛がめざめる。彼らはみ声を聞き、イエスに従うのである。」(各時代の希望中巻 279)

「キリストの地上の生涯、われわれのための犠牲、われわれの仲保者としての天における働き、そして、主を愛する者のために備えておられる住居のことを考えて、われわれは、ただ、キリストの愛は何と高く、何と深いことだろうと叫ぶことしかできない。」(患難から栄光へ下巻 13, 14)

- a. イエスはご自分の羊にどの保証を与えておられますか（ヨハネによる福音書 10:28, 29）。

「いまイエスは、神のみもとにのぼって、神と共に宇宙の王座についておられるが、その慈悲深いご性質をすこしも失ってはおられない。今日も同じように、やさしい同情に満ちたイエスの心は、人類のすべての苦悩に向かって開かれている。刺されたみ手は、世にあるご自分の民をもっと豊かに祝福するためにきょうもさし出されている。『だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない』（ヨハネ 10:28）。キリストに献身した魂は、キリストの御目には、全世界よりもとうといのである。救い主は、ひとりがみ国に救われるためであっても、カルバリーの苦悩を経験されたであろう。主は、ご自分がそのために死なれた魂を決してお捨てにならない。イエスに従う者たちが自分からイエスを離れようとしないう限り、イエスは、彼らを固くひきとめておられる。」（各時代の希望中巻 280）

- b. わたしたちの霊的な安全と救いの保証は、どこに基づいていますか（ローマ人への手紙 8:31-39）。

「天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりとつかんでいるからである。もし救いがわれわれ自身の努力にかかっているとすれば、われわれは救われることができない。しかし救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。キリストをとらえるわれわれの力は弱いように見えるかもしれないが、キリストの愛は兄の愛のようで、主と結ばれているかぎり、だれも主のみ手からわれわれを引き離すことはできない。」（患難から栄光へ下巻 256）

個人的な復習問題

1. 羊飼いと盗人のふるまいの違いを説明しなさい。
2. イエスは他にどのような象徴を通して、ご自身を表されましたか。
3. 真の羊飼いは、自分の羊たちをどのように扱いますか。
4. 羊はなぜ羊飼いはについていきますが、知らない人にはついて行きませんか。
5. わたしたちはどのように救いの確証を得るべきか、説明しなさい。

イエスとラザロ

暗唱聖句：「主の聖徒の死はのみ前において尊い。」（詩篇 116:15）

「キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。… キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。」（各時代の希望中巻 345, 346）

推奨文献： ミストリー・オブ・ヒーリング 197-201

1.

ベタニヤの家族

日/6月15日

a. ベタニヤの街にイエスには、どの弟子がいましたか（ヨハネによる福音書 11:5）。

「〔キリスト〕の心は、ベタニヤの家族に対して強い愛情のきずなで結ばれていた。そしてこの家族のひとりのために、キリストの最もふしぎなみわざがなされたのであった。

イエスはたびたびラザロの家でくつろがれた。救い主にはご自分の家庭がなかった。主は、友人や弟子たちのもてなしを受けられたが、それでもしばしば疲れて人とのまじわりがほしくなれると、怒っているパリサイ人たちの疑いやねたみからのがれて、このなごやかな家族のところへおいでになることをよろこばれた。ここにイエスは、心からの歓迎と、純粋できよい友情をみいだされた。イエスは、ここでは、ご自分のことばが理解され心にとめられることを知っておられたので、率直に、何の遠慮もなくお話になることができた。」（各時代の希望中巻 334, 335）

b. どのような種類の家に、神はご自分の最良の祝福と共にご臨在なさいますか（箴言 3:33（下句））。

「救い主は、静かな家庭と、興味をもってご自分の話を聞いてくれる人たちをよろこばれた。主は人間的なやさしき、礼儀、愛情を熱望された。主がいつも与えようとしておられる天の教えを受け入れた人たちは非常にめぐまれた。」（同上 335）

- a. ラザロの姉妹たちは、自分の兄弟が深刻な病気にかかったとき、どのような行動をとりましたか。また彼らの受けた応答は何でしたか(ヨハネによる福音書 11:1-4)。

「ラザロが急に病気になったので、彼の姉妹たちは救い主に使いをやって、『主よ、ただ今、あなたが愛しておられる者が病気をしています』と言わせた(ヨハネ 11:3)。彼女たちは、兄弟を襲った病気の激しさを見たが、キリストがどんな病気でも治すことができになることを知っていた。彼女たちはキリストが困りきっている自分たちに同情してくださると信じた。そこで、キリストにすぐおいでくださるようというさし迫った要求をしないで、『あなたが愛しておられる者が病気をしています』という信頼に満ちたことばを申し送っただけであった(ヨハネ 11:3)。姉妹たちは、キリストがすぐに伝言に応じて、ベタニヤにお着きになったらすぐ自分たちのところにきてくださるものと思っていた。

姉妹たちは、イエスからのことばを熱心に待った。兄弟に生気があるかぎり、彼女たちは祈りながらイエスのおいでを待った。しかし使いの者は、イエスをお連れしないで帰ってきた。それでも彼が、『この病気は死ぬほどのものではない』とのイエスのみことばを伝えたので、姉妹たちは、ラザロが生きるという望みをすてなかった(ヨハネ 11:4)。彼女たちは、ほとんど意識不明の病人にやさしく望みと励ましのことばを語ろうと努めた。」(各時代の希望中巻 336, 338)

- b. 翌数日にわたるキリストの言葉と行動を述べなさい(ヨハネによる福音書 11:5-8)。

「二日の間、キリストは、その伝言を心の中から忘れておられるようにみえた。キリストがラザロのことを口にされなかったからである。弟子たちは、イエスの先駆者であるバプテスマのヨハネのことを思った。ふしぎな奇跡を行う力をもっておられるイエスが、どうしてヨハネを獄の中で衰弱して非道な死に方をするがままにしておかれたのだろうと、彼らはふしぎに思ったのだった。そのような力を持っておられるのに、なぜキリストは、ヨハネの生命を救われなかったのだろう。この質問はパリサイ人たちからもよくたずねられた。パリサイ人たちは、ご自分が神のみ子であるというキリストの主張に対して、答えることのできない議論としてこの質問を出した。救い主は、弟子たちに、試練と損失と迫害について警告しておられた。主は試練のうちに彼らを棄てられるのだろうか。自分たちはキリストの使命をまちがえたのではないだろうかと疑う者たちもいた。そしてみんなが深く思い悩んだ。...

弟子たちは、もしイエスがユダヤに行かれるのだったのなら、どうして二日間待たれたのだろうとふしぎに思った。しかしいま彼らの心を占めているのは、キリストと彼ら自身についての心配であった。彼らは主がたどろうとしておられる道に危険しか見ることができなかった。」(同上 339)

- a. キリストがいかにラザロの病気をかこむ出来事の複雑な場面を扱われたかということから、わたしたちはどのような時間を越えたメッセージを集めることができますか(ヨハネによる福音書 11:9, 10)。

「キリストと共に働く共労者となることができたはずでありながら、使命者と彼らのメッセージを拒絶してきた人々は、彼らの方角を失う。彼らは闇の中を歩み、何につまずくかを知らない。そのような人は終りの時代の惑わしにすぐに欺かれる。彼らの思いは重要でない関心事でいっぱいになり、キリストと共にくびきを負い、神と共に働く共労者になる祝福された機会を失う。」(クリスチャン教育の基礎 471)

- b. イエスはご自分の弟子たちにどのような驚くべき啓示を与えようとしておられましたか。それでありながら、彼らはこのお方の言葉をどのように解釈しましたか(ヨハネによる福音書 11:11, 12)。

「そう言われたが、それからまた、彼らに言われた、『わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く』『わたしたちの友ラザロが眠っている』。何という感動させられることばだろう。何という同情に満ちたことばだろう。弟子たちは、エルサレムへ行く事によって主が招こうとしておられる危険に心がうばわれて、ベタニヤの遺族のことをほとんど忘れていた。しかしキリストはそうではなかった。弟子たちは心を責められた。彼らは、キリストがもっとすばやく伝言に応じられなかったので、失望していた。彼らは、キリストがラザロとその姉妹たちにやさしい愛情を持っておられると思っていたのに、実際はそうでなかったのだ、そうでなければ主は使いの者といっしょに急いで行かれたはずだと、考えなくなっていた。しかし、『わたしたちの友ラザロが眠っている』ということばは、彼らの心のうちに正しい感情を呼びよしました。キリストは悲しんでいる友人たちを忘れてはおられなかったのだと、彼らは確信した。」(各時代の希望中巻 340)

- c. キリストの言葉が実際には何を意味していたのかを説明しなさい(ヨハネによる福音書 11:13, 14)。

「キリストは、信じる子らにとって死は眠りであると言っておられる。彼らの生命はキリストとともに神のうちにかくれているのであって、最後のラッパが鳴りわたるときまで、死ぬ者はキリストのうちに眠るのである。」(同上 341)

- a. なぜイエスはラザロが死んだことを知った後でさえ、ベタニヤから遠ざかっておられたのですか (ヨハネによる福音書 11:15)。

「弟子たちは、キリストが、『ラザロは死んだのだ。そして、わたしがそこにいあわせなかったことを…喜ぶ』と言われたことばに驚いた。救い主は、悲しんでいる友人の家庭をわざと避けられたのだろうか。マリヤとマルタと死にかけているラザロがうちすてられたようにみえた。だが彼らはひとりぼっちではなかった。キリストはすべての光景をごらんになっていて、ラザロの死後、あとに残された姉妹たちはキリストの恵みによって支えられた。イエスは、彼女たちの兄弟が強敵である死と戦っているとき、彼女たちの引き裂かれた心の悲しみを目に見ておられた。主は、『ラザロは死んだのだ』と弟子たちに言われたとき、心に激しい苦痛を感じられた。しかしキリストは、ベタニヤの愛する者たちだけのことを考えておられなかった。主は弟子たちを訓練することを考えられねばならなかった。天父の恵みがすべての人をおおうことができるように、彼らは世に対して天父を代表する者となるのであった。彼らのために、主は、ラザロが死ぬことをおゆるしになった。もし主がラザロを病気から健康へ回復されたら、イエスの神としての性格についての最も絶対的な証拠であるこの奇跡は行われなかったのである。」(各時代の希望中巻 341, 342)

- b. 偉大な癒し主が、ご自分の友ラザロが非常に病み、実際に死ぬままにされた方法から、わたしたちは何を悟るべきですか (コリント人への第一の手紙 15:17-19; 詩篇 18:28)。

「〔キリストの〕働きは病気に対するその御力を表すことにとどまらなかった。このお方は癒しの働きのたびに、ご自分の愛と慈愛という神聖な諸原則を心の中に植えつける機会となされた。」(健康についての勧告 249)

「もしキリストが病室におられたら、サタンはラザロに権力をふるうことができないので、ラザロは死ななかつたであろう。生命を与えるおかたであるイエスのおられるところでは、死は、ラザロをめがけて矢を放つことができなかったであろう。そこでキリストは離れておられた。主は敵に権力をふるわせておかれたが、それはご自分が敵を征服して撃退されるためであった。キリストは、ラザロが死の支配下にはいることをお許しになった。悲しむ姉妹たちは、兄弟が墓に横たえられるのを見た。彼女たちが兄弟の死顔を見ると、あがない主に対する彼女たちの信仰が激しく試みられることを主はご存知であった。しかし主は、姉妹たちの信仰が、いま経験している戦いを通して、ずっと大きな力となって輝き出ることをご存知だった。主は、彼女たちが耐えた苦痛のひとつひとつをご自分も経験された。主は手間どられたとはいっても、彼らを愛しておられることに変わりはなかった。主は、彼女たちのために、ラザロのために、ご自身のために、また弟子たちのために、勝利が獲得されることをご存知だった。」(各時代の希望中巻 342, 343)

- a. 神の忠実な僕たちの死に関して、それがどのように起ころうと、いつも何を考えなければなりませんか（詩篇 116:15）。例をあげなさい。

「エリシャには火の車に乗って、彼の師に従うことは許されなかった。主は彼が長い病の床に伏すことをお許しになった。長時間にわたる人間的弱さと苦しみの中で、彼の信仰はしっかりと神の約束を把握し、彼の回りに慰めと平和をもたらす天使たちを常に眺めた。…。神の摂理と神の慈悲深い寛容とが十分に理解されるにつれて、その信仰は神に対する永続的信頼となっていった。そして、死が迫ってきたとき、彼にはその働きを休む用意ができていたのである。」（国と指導者上巻 230, 231）

- b. ベタニヤでは、イエスの到着前に、どのような出来事がありましたか。またこのお方が来られたとき、他にだれがいましたか（ヨハネによる福音書 11:17-19）。

「ラザロのところに行くのを遅らせることには、まだ主を受け入れていない人々に対するキリストのあわれみの目的があった。ラザロを死人の中からよみがえらせることによって、頑固で不信な民に、ご自分がほんとうに『よみがえりであり、命である』という別な証拠をお与えになるために、キリストは出かけるのを延ばされたのであった（ヨハネ 11:25）。主は、イスラエルの家の迷えるあわれな羊である民について、望みをまったく放棄することを好まれなかった。彼らがかたくであるために、イエスの心は痛んでいた。あわれみ深い主は、ご自分が救い主であって、生命と不死を明らかにすることのできるただ一人のおかたであるという証拠をもう一度彼らに与えようと意図された。これは祭司たちが誤解することのできない証拠となるのであった。これが、イエスがベタニヤに行くのを遅くされた理由であった。この最高の奇跡であるラザロのよみがえりは、キリストの働きと、神性についてのキリストの主張に、神の印をおすものであった。」（各時代の希望中巻 343）

個人的な復習問題

1. ラザロの家族にはだれがいましたか。
2. なぜイエスはお自分の友の要望にすぐに応じられなかったのですか。
3. キリストの態度に対する弟子たちの反応は、どのようなものでしたか。
4. キリストを信じる信徒たちは、死をどのように見なすべきですか。
5. キリストはどのような目的のために、ラザロが死ぬままにされましたか。

復活であり命

暗唱聖句：「イエスは彼女に言われた、『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。』（ヨハネによる福音書 11:25）

「信じる者には、死は小事にすぎない。キリストは、それをたいしたことではないかのように語っておられる。…クリスチャンにとって死は眠り、一瞬の沈黙と暗黒にすぎない。生命はキリストと共に神のうちにかくされ、」（各時代の希望下巻 318）

推奨文献： セレクトド・メッセージ 1巻 296-300

1.

ベタニヤにおけるイエス

日/6月22日

- a. イエスがベタニヤに来られると聞いて、マルタは何をして、どのような確信を表明しましたか（ヨハネによる福音書 11:20-22）。

「会葬者たちの中には、この家族の親戚の人たちがいて、そのある者はエルサレムで高い責任の地位を占めている人たちだった。その中にはキリストの最も激しい反対者たちが何人かいた。キリストは彼らの意図を知っておられたので、すぐには姿をお見せにならなかった。知らせはそつとマルタに伝えられたので、部屋の中のほかの人たちにはきこえなかった。…

マルタは、イエスを出迎えるために急いだが、彼女の心は矛盾する感情に波立っていた。マルタは、イエスのお顔の表情に、いつもと変らないやさしさと愛情を読みとった。イエスに対する彼女の信頼は裏切られなかった。しかし彼女は、イエスも愛しておられた自分の愛する兄弟のことを思った。イエスがもっと早くきてくださらなかったために彼女の心にわき起こっている悲しみと、いまでも主は自分たちを慰めるためになにかをしてくださるだろうという望みとで、彼女は、『主よ、もしあなたがここにいてくださったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう』といった（ヨハネ 11:21）。この姉妹たちは、泣き人たちの騒ぎの中にあつて、この言葉を何度も何度も繰り返したのだった。

人としてまた神としての同情をもって、イエスは悲しみと心配にやつれたマルタの顔をじつとごらんになった。マルタは過ぎ去ったことをくどくどくりかえしたいとは思わなかった。すべては、『主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう』との悲痛なことばに表現されていた。しかしイエスの愛のお顔をじつとみながら、彼女は、『しかし、あなたがどんなことをお願いになつても、神はかなえてくださることを、わたしは今でも存じています』とつけ加えた。（各時代の希望中巻 344, 345）

2. 究極的な希望の約束

月/6月23日

- a. イエスはマルタに何を保証されましたか(ヨハネによる福音書 11:23)。これにより彼女は何を理解しましたか(ヨハネによる福音書 11:24)。

「イエスはマルタの信仰を励まして、『あなたの兄弟はよみがえるであろう』といわれた(ヨハネ 11:23)。イエスの答えは、その場の変化について望みを起こさせるためにいわれたのではなかった。主は、マルタの思いを、彼女の兄弟の現在の回復をこえて、義人のよみがえりにむけられた。主がそうされたのは、彼女が、ラザロのよみがえりを通して、死んだすべての義人のよみがえりについての保証と、義人のよみがえりが救い主の力によってなしとげられるという確信とをみるためであった。マルタは、『終わりの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています』と答えた(ヨハネ 11:24)。(各時代の希望中巻 345)

- b. イエスはマルタの確信を、どの言葉をもってお認めになりましたか(ヨハネによる福音書 11:25; ヨハネの第一の手紙 5:12)。

「イエスはなおマルタの信仰に正しい方向を与えようとして、『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言された(ヨハネ 11:25)。キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の生命がある。『御子を持つ者はいのちを持つ』つ(ヨハネ第一 5:12)。キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。」(同上 345, 346)

- c. どの約束が、墓の向こうのわたしたちの希望の基礎ですか(ヨハネによる福音書 5:26(上句))。マルタの確信は、キリストの奇跡とどのように関係していますか(ヨハネによる福音書 11:26, 27)。

「キリストはここでご自分の再臨の時を予期しておられる。その時、死せる義人は朽ちない者としてよみがえり、生ける義人は死を見ないで天へ移されるのである。キリストがラザロを死人の中からよみがえらせることによって行おうとしておられた奇跡は、死せるすべての義人のよみがえりを代表するのであった。キリストはみことばとみわざによって、ご自分がよみがえりの創始者であることを宣言された。まもなくご自分が十字架の上に死のうとしておられたキリストは、よみの征服者として死の鍵をもって立ち、永遠の生命を与える権利と権力を主張された。」(同上 346)

3. イエスが泣かれる

3. イエスが泣かれる

火/6月24日

- a. 悲しみに打ちひしがれたマリヤの行動と言葉を述べなさい(ヨハネによる福音書 11:28-32)。
- b. イエスがマリヤと何人かのユダヤ人が泣いているのを見たとき、イエスはどうされましたか。それはなぜですか(ヨハネによる福音書 11:33-35)。

『イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ』られた。主は集まっているみんなの心を読まれた。悲しみの表現として通っていることが、多くの者にとっては見せかけにすぎないことを、主はごらんになった。いま偽善的な悲しみを表わしている人々の中に、偉大な奇跡を行うおかたばかりでなく、死人の中からよみがえさせられるラザロの死もまもなくたくらむ人たちがいることをご存知だった。キリストは、彼らのみせかけの悲しみという衣を引きはがすこともおできになった。しかし主は、その正しい怒りを抑えられた。主は、事実のままに語ることのおできになることばを、口からだされなかった。なぜなら、そこには、悲しみのうちに主の足下にひざまずきながら本当に主を信じている愛する者がいたからである。

彼らはイエスにいった、『主よ、きて、ごらん下さい』(ヨハネ 11:34)。彼らは一緒に墓のほうへ進んでいった。それは悲しみに満ちた光景であった。ラザロは大層愛されていたので、その姉妹たちは心を断ち切られるような思いで泣き、一方ラザロの友人だった人たちも、あとに残された姉妹たちと一緒に涙を流した。人としてのこのような悲嘆を思い、また世の救い主がそばに立っておられるのに友人たちが死人についてこんなにも悲しみ苦しんでいるのをごらんになって、『イエスは涙を流された』。イエスは、神の御子であられたが、人性をとっておられたので人の悲しみに心を動かされた。主のやさしい、あわれみに満ちた心は、苦悩をごらんになることによっていつも同情をよび起こされる。主は泣く者と共に泣き、よろこぶ者と共によろこばれるのである。』(各時代の希望中巻 347, 348)

- c. イエスの生涯におけるこのひと時は、わたしたちにどのように模範となるべきですか(ローマ人への手紙 12:15)。

「キリストのりっぱな模範、泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜び、他人の気持に自らなられたところの、比類のない優しさが真心からキリストに従うすべての人の性格に深い感化を及ぼすに違いない。そう言う人は親切な言葉、行動によって疲れた者の道を平易にしようと努力する。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 130)

- a. イエスはご自分のまわりにいる人々にどのご命令をお与えになりましたか(ヨハネによる福音書 11:39 (上句))。マルタはどのように反応しましたか。またイエスは彼女に何と言われましたか(ヨハネによる福音書 11:39 (下句))。

「主が働きをしようとされると、サタンはだれかが反対するように働きかける。『石を取りのけなさい』とキリストは言われた。できるだけ、わたしの働きに道を備えなさい。しかしマルタの積極的で野心的な性質が表面にあらわれた。彼女は、腐りかけたからだを見せたくなかった。人間の心は、キリストのみことばをなかなか理解できないので、マルタの信仰は、キリストの約束の真の意味を把握していなかった。

キリストはマルタを責められたが、そのことばはこの上なくやさしく語られた。『もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか』(ヨハネ 11:40)。なぜあなたはわたしの力について疑うのか。何の理由でわたしの要求に反対するのか。あなたはわたしのことばを持っている。もしあなたが信じるなら、あなたに神の栄光を見させてあげる。自然の不可能は、大能の神の働きを妨げることができない。懐疑と不信は謙遜ではない。キリストのみことばを絶対に信ずることこそ、真の謙遜であり、真に自己を放棄することである。

『石を取りのけなさい』(ヨハネ 11:39)。キリストは、石にそこをどきなさいとお命じになることもできたし、また石もその声に従ったであろう。キリストはご自分のそば近くの天使たちに石を取りのけるように命じることもおできになった。キリストのご命令に、目に見えない手が石を取りのけたであろう。しかしそれは人間の手で取りのけられねばならなかった。こうしてキリストは、人は神と協力することを示そうと望まれた。人の力でできることには、神の力は呼び求められない。神は人の助けなしにはすまされない。神は人を強め、彼が自分に与えられている才能と能力とを用いるとき、その人と協力される。」(各時代の希望中巻 350, 351)

- b. キリストのどの言葉がわたしたちの不信を今日やさしく譴責しますか(ヨハネによる福音書 11:40)。

「しかし、生きた信仰を持たない者が多い。彼らがなぜ、もっと神の力をみることができないかは、それに起因している。彼らが弱いのは、不信仰の結果である。…彼らはなんでも自分で処理しようとする。いろいろ考えてはみるが、ほとんど祈ることをせず、神に対する真の信頼に欠けている。自分では信仰があるように思っているが、それは、一時の衝動にすぎない。彼らは、自分たちの必要、あるいは、神が喜んで与えようとしておられることを認めないために、主のみに彼らの願いを述べつつ、耐え忍ぶことをしないのである。」(礼拝の実物教訓 124)

- a. イエスは、墓の横で、どの祈りをお捧げになりましたか（ヨハネによる福音書 11:41, 42）。

「命令に従って、石がとり除かれる。すべてのことが公然とわざわざ行われる。何の欺瞞も行われていないということを見る機会がすべての人に与えられる。岩の墓の中に、ラザロのからだ死のうちに冷たく無言のまま横たわっている。泣き人たちの泣き声が静まる。人々は、驚きと期待の思いで、次に何事が起こるかを見ようと待ちかまえて、墓のまわりに立っている。…

ここでキリストは、神をご自分の父と呼び、完全な確信をもって、ご自分が神のみ子であることを宣言しておられる。」（各時代の希望中巻 351）

- b. どの言葉をもってイエスはラザロをよみがえらせましたか（ヨハネによる福音書 11:43）。ただちに何が起こりましたか（ヨハネによる福音書 11:44）。

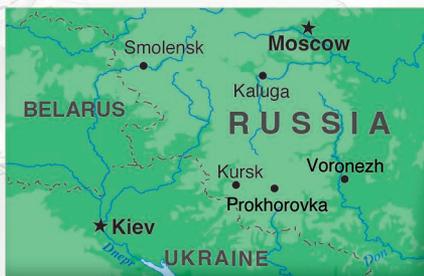
「鋭いキリストのみ声が死者の耳をつらぬく。キリストが語られると、神性が人性の中にひらめく。神の栄光に照らされたキリストのみ顔に、人々はキリストの力についての保証を見る。どの目もほら穴の入口に釘づけにされる。どの耳も、ほんのかすかな音でも聞きのがすまいとする。苦痛なまでの非常な関心をもって、どの人もみなキリストの神性がためされるのを待ち受ける。それは神のみ子であるというキリストの主張を実証するか、それとも望みを永遠に消滅させるか、そのどちらかの証拠となるのであった。

静かな墓の中に動く気配がして、死んでいた者が墓の戸口に立つ。…人は人のために働かねばならない。ラザロは自由になり、病気でやつれ果てて手足のよろめく弱々しい人間としてではなく、人生の盛りにある、力に満ちたりっぱな人間として人々の前に立つ。彼の目は知性と救い主への愛に輝いている。彼は、賛美のうちに、イエスの足下にひれ伏す。」（各時代の希望中巻 352, 354）

個人的な復習問題

1. ラザロの姉妹たちがイエスに対して持っていた信頼を述べなさい。
2. イエスはマルタとマリヤと、すべての信徒に何を約束されましたか。
3. イエスはなぜ泣かれたのですか。
4. この奇跡において、どのように人性は神性と協力したのですか。
5. イエスの呼び声に応じたラザロの行動を述べなさい。

第一安息日献金



安息日 4月5日

ロシア・プロホロフカの教会の再建
世界最大の国で発展している働きに参加しよう！（4ページ）



安息日 5月3日

世界ミッション
まだ行くべき新しい場所が非常に多くあります。ですから、この神聖な働きを終えるために支援しましょう（25ページ）



安息日 6月7日

インドのタミル ナードゥ州の二つの礼拝堂
南インドは差し迫って福音を必要としています。今こそ改善するわたしたちのチャンスです（51ページ）